第２回　国際標準化対応支援委員会／運営委員会 国際会議出席報告書

資料 No.	＜SC47 関係＞国際会議出席報告書
2-3／SC47A-①	SC47A/WG2「集積回路／デジタル IC」ポーランド／クラクフ国際会議出席報告書 20090422－20090423
2-3／SC47A-②	SC47A/WG9「集積回路／EMC 測定法」ポーランド／クラクフ国際会議出席報告書 20090420－20090421
資料 No.	＜SC48B 関係＞ 国際会議出席報告書
2-3／SC48B-①	SC48B「電子機器用コネクタ」ベルギー／ブリュッセル国際会議出席報告書 20090512-20090514
資料 No.	＜SC62D 関係＞国際会議出席報告書
2-3／SC62D-①	SC62D/MT17「医用電子機器／電気メス」カナダ／バンクーバ国際会議出席報告書 20090420-20090423
資料 No.	＜TC80 関係＞国際会議出席報告書
2-3／TC80-①	TC80/WG14「基地局／航法支援 AIS」米国／セントピータースバーグ国際会議出席報告書 20090504-20090508
資料 No.	＜TC87 関係＞国際会議出席報告書
2-3／TC87-①	TC87/WG14「超音波照射パラメータの測定」韓国／ソウル国際会議出席報告書 20090511-20090512
2-3／TC87-②	TC87/WG9「パルスエコー超音波診断装置」韓国／ソウル国際会議出席報告書 20090513-20090514
資料 No.	＜TC91 関係＞国際会議出席報告書
2-3／TC91-①	TC91/WG2「電子実装技術・電子機器実装の要求事項」フランス／グルノーブル国際会議出席報告書 20090522
2-3／TC91-②	TC91/WG3「電子実装技術・電子機器実装の試験及び測定方法」フランス／グルノーブル国際会議出席報告書 20090521
2-3／TC91-③	TC91/WG3「電子実装技術・測定方法」と TC47WG2「半導体・信頼性技術」国際合同会議 フランス／グルノーブル国際会議出席報告書 20090522
2-3／TC91-④	TC91「電子実装技術」フランス／グルノーブル国際会議出席報告書 20090521-20090522
資料 No.	＜TC100 関係＞国際会議出席報告書
2-3／TC100-①	TC100/AGM「AV マルチメディアシステム及び機器」米国／ワシントン DC 国際会議出席報告書 20090521
2-3／TC100-②	TC100/AGS「AV マルチメディアシステム及び機器」米国／ワシントン DC 国際会議出席報告書 20090520
2-3／TC100-③	TC100/High Level Meeting Ad-Hoc「AV マルチメディアシステム及び機器」スイス／ジュネーブ国際会議出席報告書 20090501
資料 No.	＜TC100/TA4 関係＞国際会議出席報告書
2-3／TC100TA4-①	TC100/TA4/MT60958-3「デジタルオーディオ・インターフェース：民生用」ドイツ／ミュンヘン国際会議出席報告書 20090509
2-3／TC100TA4-②	TC100/TA4/MT61937-1「圧縮デジタルオーディオ・インターフェース：一般」ドイツ／ミュンヘン国際会議出席報告書 20090509
2-3／TC100TA4-③	TC100/TA4/MT61937-2「圧縮デジタルオーディオ・インターフェース： Burst info」ドイツ／ミュンヘン国際会議出席報告書 20090509
資料 No.	＜TC100/TA5＞国際会議出席報告書
2-3／TC100TA5-①	TC100/TA5/PT/MT「ケーブルネットワーク」フィンランド／ヘルシンキ国際会議出席報告書 20090512-20090515
資料 No.	＜TC113 関係＞国際会議出席報告書
2-3／TC113-①	TC113/WG3「電気・電子分野の製品及びシステムのナノテクノロジー」中国／北京国際会議補助報告書 20090414-20090416

資料 No.	＜SC31 関係＞国際会議出席報告書
2-3／SC31-①	SC31/WG6「モバイルアイテム識別と管理」米国／シダーラピッズ 国際会議出席報告書 20090519-20090520
2-3／SC31-②	SC31/WG4/SG1、SG3「RFID のｱﾌﾟﾘｹｰｼｮﾝｺﾏﾝﾄﾞｲﾝﾀﾌｪｰｽ」、「RFID ｴｱｲﾝﾀﾌｪｰｽ」米国／ダラス国際会議出席報告書 20090511-20090515
2-3／SC31-③	SC31/WG1「データキャリア」、SG3「コンフォーマンス」日本／京都国際会議出席報告書 20090415-20090416
2-3／SC31-④	SC31/WG1「データキャリア」、SG3「コンフォーマンス」日本／京都国際会議経費収支報告書 20090415-20090416

様式 4

（社）電子情報技術産業協会　　運営委員会・資料番号：2-3／SC47A-①（事務局記入）
国際標準化対応支援委員会　御中

提出日：2009 年 6 月 5 日

（報告者記載）予算番号：H21SC47A①

国際会議出席報告書

国際会議担当委員名：齊藤義行　報告書作成者氏名：　市川　浩司　（会社名）（株）デンソー

出席会議名（半角）	区　分	組織番号（TC/SC/TA）	SC47A/WG2（半角）
SC47A/WG2	☐TC ☐SC ☐TA ☒WG ☐PT ☐その他		
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他	名　称（日本語）	集積回路／デジタル IC
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他		
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他	☒単独開催　☐同時開催	
開　催　期　日	2009 年 4 月 22 日 ～ 2009 年 4 月 23 日		
開　催　場　所	（国名）ポーランド	（都市名）クラクフ	
ﾁｪｱﾏﾝ／ｺﾝﾍﾞﾅ	三谷真一郎（日立製作所）	幹事国　日本	
参　加　国及び 参　加　人　数	5 ヶ国、主な国名 日本、フランス、ドイツ、韓国、ポーランド、参加人数（11）		
日　本　人 出席者名（会社名）	[○：補助対象者･･･（例）：○ 電子太郎(JEITA 電子)] ○三谷真一郎(日立)，中村篤(ルネサス)，和田修己(京都大学)，○横溝剛一(STARC)，○市川浩司(デンソー)		

議事概要（背景･目的･成果･問題点など）（この欄は、見かけは 1 行ですが、所定欄に改行しながら最大 28 行まで記入できます。）

1. 前回議事録の確認　修正なく承認された。
2. ドキュメント進捗の確認

	東京会議	→	ポーランド会議
IEC TS62433-1, (Framework)	47A/785/CD		47A/808/CD、CC_47A/808
IEC 62433-2, (ICEM-CE)	Published		
IEC 62433-3, (ICEM-RE)	PWI(waiting for NP)	PWI(waiting for NP)	進捗無し
IEC 62433-4, (ICIM)	PWI(waiting for NP)	PWI(waiting for NP)	進捗無し
Black box modelling	PWI		47A/809/DC、CC_47A/809

3. ドキュメント審議

①IEC TS62433-1, (Framework)　CC_47A/808 の審議

東京会議以降、JPNC が本ドキュメントの内容を CC_47A/790 に従い内容を大きく改定したので、その内容を確認した。本ドキュメントに関係し、Black box modelling、Immunity model に関する確認など検討しながら CC_47A/808 の審議を行った。現状のフレームワークは CE のみを扱っているので CI,RE,RI を俯瞰したフレームワークではない。このため本会議で審議した意見の反映と仏の追加案とともに 3 CD として提出することとした。このドキュメントのプロジェクトリーダーは NLNC の TRAA 氏であったが、継続参加が困難な状況のため JPNC（市川、デンソー）が担当する。

②Black box modelling　　CC_47A/809 の審議

本ドキュメントの扱いは IEC 62433-2 を改定時に取込むこみ、TR は削除することを確認した。ただし、IEC 62433-2 の改定をいつ始めるかは未定。本ドキュメントは CC に従い修正した後、DTR（TS 62433-2-1）として提出する。

4. その他　次回開催について

次回テルアビブ会議は日、仏、独は参加が難しい状況のため、EMC コンポ 09 の開催に合わせて 11 月にドイツで開催する案を検討した。Marot 氏、三谷氏の両コンビナーが春日氏と調整する。

[注]：1. 該当者は、出席会議終了後 [6 週間以内] に国際会議担当委員経由で、国際標準化対応支援委員会事務局宛ご提出下さい。
国際会議出席報告書の審議・承認の後に補助金を支払う。
会議終了後速やかに提出し、直近の運営委員会にて審議・承認を受けることが望ましい。
2. 本報告書は、同一会議に 2 名以上出席の場合、代表者が提出してください。
3. WG が TC/SC/TA と同時開催の場合は、WG 会議内容は TC/SC 報告に含めて報告書を提出して下さい。
4. 報告書の追加、訂正が生じた場合は、運営委員会開催後 1 週間以内に事務局に提出して下さい。
5. この報告書は、手続き完了後、JEITA ホームページ「国際標準化対応支援委員会」に掲載し、会員企業への報告に替えます。

国際標準化対応支援委員会事務局：(社)電子情報技術産業協会　知的基盤部標準･安全グループ
〒101-0065 東京都千代田区西神田 3-2-1（千代田ファーストビル南館）　Tel：03-5275-7259　Fax：03-5212-8122

様式 4

（社）電子情報技術産業協会　　運営委員会・資料番号：2-3／SC47A-②（事務局記入）
国際標準化対応支援委員会　御中　　提出日：2009 年 6 月 5 日

（報告者記載）予算番号：H21SC47A②

国際会議出席報告書

国際会議担当委員名：齊藤義行　報告書作成者氏名：齊藤義行　（会社名）パナソニック（株）

出席会議名（半角）	区　分	組織番号 (TC/SC/TA)	SC47A/WG9 (半角)
SC47A/WG9	☐TC ☐SC ☐TA ☒WG ☐PT ☐その他		
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他	名　称 (日本語)	集積回路／EMC 測定方法
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他		
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他	☒単独開催　☐同時開催	

開 催 期 日	2009 年 4 月 20 日 ～ 2009 年 4 月 21 日	
開 催 場 所	（国名）ポーランド	（都市名）クラクフ
ﾁｪｱﾏﾝ／ｺﾝﾍﾞﾅ	Christian Marot（仏）、	幹事国　日本
参 加 国及び 参 加 人 数	5 ヶ国、主な国名 日本、フランス、ドイツ、韓国、ポーランド、参加人数（13）	
日　本　人 出席者名（会社名）	[○：補助対象者…（例）：○ 電子太郎(JEITA 電子)] ○中村篤(ﾙﾈｻｽ),○齊藤義行(ﾊﾟﾅｿﾆｯｸ),市川浩司(ﾃﾞﾝｿｰ),横溝剛一(STARC),三谷真一郎(日立),和田修己(京大)	

議事概要（背景・目的・成果・問題点など）（この欄は、見かけは1行ですが、所定欄に改行しながら最大28行まで記入できます。）

1. 前回（東京）会議の議事録確認　⇒IEC 62132-2:TEM-Cell 法のタイトルから周波数 Range を削減し，承認
2. 規格案文書への各国からのコメントの審議
 2-1. IEC 61967-8: IC Stripline method　(*) CDV に進むことに決定
 日本5件，仏12件のコメントを審議し、Observation を FIX
 2-2. IEC 62132-8: IC Stripline method のコメント審議　(*) 2nd CD に進むことに決定
 仏8件，独9件，日本12件のコメントを審議し、Observation を FIX. 以下の2点が大きな議論となった.
 ・GHz 以上の周波数遷移 STEP が 20MHz なのは小さすぎるという点　⇒　一旦 20MHz とし，追加実験後に再考する
 ・E Field 計算式のハウジングあり／なしの補正項は必要ないという点（独の技術者と電話会議で議論を実施）
 ⇒　補正項は E Field の式から削除し，試験結果を補正するパラメータとして別な式で定義・説明する
 2-3. IEC 61967-xx：Near Field Scan Data Exchange Format のコメント審議（番号未定）(*) DTR に進むことに決定
 独26件，蘭1件，日本4件のコメントを審議し、Observation を FIX
 2-4. IEC 62132-2：Tem-Cell Method のコメント審議　(*) FDIS に進むことに決定
 ・PL（米委員）が脱退したので WG で修正を加えることに決定（Observation の FIX と並行して修正を実施済み）
 ・Technical コメント（中国1件，独2件，英7件，日本2件）のみを審議し、Observation を FIX
 2-5. IEC 62215-3：Non-synchronous transient injection method の再 NP の紹介（独委員）⇒4/19 に CO 送付済み
 以前との大きな違いは①家電・車載適用例を追記，②Coupling Network を DPI 法（IEC 62132-4）に整合，の2点
3. 韓国からの新提案「System in Package（SIP）with EMC」
 今後の機器設計には SIP の EMC 測定・モデルが必要という内容で具体的な提案はなし⇒現行規格で対応可能という意見が多く，「対応できないのであれば具体的改良提案や新規提案をして欲しい」と韓国委員に要請された.
4. 規格化 Roadmap の更新（米委員，蘭委員が脱退したことに伴う PL の変更，NP/MC 時期の修正等）
 日本に関連する修正：和田教授が IEC 62132-1 の PL となり，今年中に MC を開始することとなった.
5. 次回の予定　ドイツ（都市未定），11 月 23 日～27 日で調整中（テルアビブでは参加できない国が多いため）

[注]：1. 該当者は、出席会議終了後 [6週間以内] に国際会議担当委員経由で、国際標準化対応支援委員会事務局宛ご提出下さい。
国際会議出席報告書の審議・承認の後に補助金を支払う。
会議終了後速やかに提出し、直近の運営委員会にて審議・承認を受けることが望ましい。
2. 本報告書は、同一会議に2名以上出席の場合、代表者が提出してください。
3. WG が TC/SC/TA と同時開催の場合は、WG 会議内容は TC/SC 報告に含めて報告書を提出して下さい。
4. 報告書の追加、訂正が生じた場合は、運営委員会開催後1週間以内に事務局に提出して下さい。
5. この報告書は、手続き完了後、JEITA ホームページ「国際標準化対応支援委員会」に掲載し、会員企業への報告に替えます。

国際標準化対応支援委員会事務局：(社)電子情報技術産業協会　知的基盤部標準・安全グループ
〒101-0065 東京都千代田区西神田 3-2-1（千代田ファーストビル南館）　Tel：03-5275-7259　Fax：03-5212-8122

様式 4

（社）電子情報技術産業協会　　運営委員会・資料番号：2-3／SC48B-①（事務局記入）
国際標準化対応支援委員会　御中

提出日：2009 年 6 月 8 日

（報告者記載）予算番号：H21SC48B①

国際会議出席報告書

国際会議担当委員名：河合　徹　　報告書作成者氏名：　河合　徹　（会社名）日本航空電子工業株式会社

出席会議名（半角）	区　分	組織番号 (TC/SC/TA)	SC48B (半角)
SC48B/WG3	☐TC ☐SC ☐TA ☒WG ☐PT ☐その他		
SC48B/WG5	☐TC ☐SC ☐TA ☒WG ☐PT ☐その他	名　称 (日本語)	コネクタ
SC48B/WG6	☐TC ☐SC ☐TA ☒WG ☐PT ☐その他		
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他	☒単独開催　☐同時開催	

開催期日	2009 年 5 月 12 日 ～ 2009 年 5 月 14 日	
開催場所	（国名）ベルギー	（都市名）ブリュッセル
ﾁｪｱﾏﾝ／ｺﾝﾍﾞﾅ	G.Weking/D.Jooren /U.Blosfeld	幹事国　アメリカ
参加国及び参加人数	10 ヶ国、主な国名 ｱﾒﾘｶ、ﾄﾞｲﾂ、ｲｷﾞﾘｽ、ﾌﾗﾝｽ、ｲﾀﾘｱ、ｵﾗﾝﾀﾞ、ﾃﾞﾝﾏｰｸ、ｽｲｽ、ﾍﾞﾙｷﾞｰ、日本、参加人数（21）	
日本人出席者名（会社名）	[○：補助対象者･･･（例）：○ 電子太郎(JEITA 電子)] ○小島慎雄(MK ｱｿｼｴｲﾂ)、○河合徹(日本航空電子)	

議事概要（背景･目的･成果･問題点など）（この欄は、見かけは 1 行ですが、所定欄に改行しながら最大 28 行まで記入できます。）

1. WG3(コネクタ)

(1)リエゾン関連：・ISO/IEC SC25: ISO/IEC 11801: 2002 amendment 2(Cat 5,6,6A,7,7A を有する情報配線システムの性能要求)に引用されている SC48B のコネクタ規格(IEC 60603-7 シリーズ、IEC 61076-3-104 及び-110)の開発は順次対応中。･SC23F/MT1: SC48B 発行の IEC 60760 との統合規格 IEC 61210(平形接続端子)は、23F/188/FDIS として回覧中である。6 月の投票結果で IEC 規格として発行が決定した後、SMB に対して IEC 60760 廃止の承認を得るためのアクションをとることにした。

(2)RJ45 コネクタ：電流負荷下での嵌合・離脱が Powr-over-Ethernet(PoE)に使用されるコネクタインターフェイスに与える影響に関しての Draft Technical Report(DTR)の発行対応が、48B/1859/INF 及びサンパウロ会議決議よりも遅れており、SC48B セクレタリーに対して 6 月末までに DTR を回覧するよう要請することを確認した。

(3)プリント基板用コネクタ(IEC 61076-4 シリーズ、PICMG 関連)：PICMG President から、SC48D より提案された Subruck の NP(48D/395/NP)に関して、PICMG 側で関連性の出てくる規格リスト、今後の TC48 とのジョイントにおける諸業務管理方法の考え方、48D/395/NP に追加すべき各種コネクタタイプ、著作権及びその所有権等についての連絡があった。

2. WG5(試験法)

(1)IEC 60512-16-21 Ed.1.0 Whisker test(日本提案)：2008 年 11 月の会議で荷重試験を除きコネクタのウイスカー試験法としてプロジェクトを進め、DC 文書として配布することに決定した。しかし今回の会議でドイツコメントを日本が受け入れれば CD として回覧しても良いとの結論に達した。日本としては、ドイツコメントに大きな障害が見当たらないのでプロジェクトを早く進める道を選んだ。ドイツコメントを盛り込んだ CD 原案は、8 月末までに作成しセクレタリへ送付する予定。

(2)各種規格審議：IEC 60512-9-3(電気的負荷を伴う機械的動作)、-17-X(動的ケーブル引っ張りに対するケーブルクランプ試験法)、-26-100(IEC 60603-7 用高速伝送試験法)、-27-100(IEC 60603-7 用信号品位試験法)、-99-001(IEC 60603-7 シリーズ及び IEC 60603-7 シリーズとの interface を持つ IEC 61076-3-1XX 用電気的負荷を伴う機械的動作)、以上 5 アイテムの文書について審議。

3.WG 6(接続技術)

(1)IEC 60352-8 Compression mount connections(日本提案)：今回の会議で 2nd CD(48B/1948/CD)に対するコメントを審議した。その結果を盛り込んだ CDV 原案を 7 月末までに作成し、SC48B セクレタリーへ送付することが決まった。

(2)IEC 60352-5 Ed.3.0 Press-in connections(Validity 2009 年 12 月)：本規格の Ed.4.0 発行へ向けた作業として、9 月のストックホルム会議にてコメントが審議できるよう CD 原案の作成作業を進めることが決まった。

[注]：1. 該当者は、出席会議終了後［6 週間以内］に国際会議担当委員経由で、国際標準化対応支援委員会事務局宛ご提出下さい。
国際会議出席報告書の審議・承認の後に補助金を支払う。
会議終了後速やかに提出し、直近の運営委員会にて審議・承認を受けることが望ましい。
2. 本報告書は、同一会議に 2 名以上出席の場合、代表者が提出してください。
3. WG が TC/SC/TA と同時開催の場合は、WG 会議内容は TC/SC 報告に含めて報告書を提出して下さい。
4. 報告書の追加、訂正が生じた場合は、運営委員会開催後 1 週間以内に事務局に提出して下さい。
5. この報告書は、手続き完了後、JEITA ホームページ「国際標準化対応支援委員会」に掲載し、会員企業への報告に替えます。

国際標準化対応支援委員会事務局：(社)電子情報技術産業協会　知的基盤部標準･安全グループ
〒101-0065 東京都千代田区西神田 3-2-1（千代田ファーストビル南館）　Tel：03-5275-7259　Fax：03-5212-8122

様式 4

（社）電子情報技術産業協会　　運営委員会・資料番号：2-3／SC62D-①（事務局記入）
国際標準化対応支援委員会　御中

提出日：2009 年 5 月 11 日

（報告者記載）予算番号：H21SC62D④

国際会議出席報告書

国際会議担当委員名：内藤正章　報告書作成者氏名：市川義人　（会社名）オリンパスメディカルシステムズ（株）

出席会議名（半角）	区分	組織番号（TC/SC/TA）	SC62D（半角）
SC62D/MT17	☐TC ☐SC ☐TA ☒WG ☐PT ☐その他		
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他	名称（日本語）	医用電子機器
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他		
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他	☒単独開催 ☐同時開催	
開催期日	2009 年 4 月 20 日 ～ 2009 年 4 月 23 日		
開催場所	（国名）カナダ	（都市名）バンクーバ	
ﾁｪｱﾏﾝ／ｺﾝﾍﾞﾅ	Eggleston, Jeffrey	幹事国　アメリカ	
参加国及び参加人数	7 ヶ国、主な国名 アメリカ、ドイツ、イギリス、日本　、参加人数（13）		
日本人出席者名（会社名）	[○：補助対象者･･･（例）：○ 電子太郎(JEITA 電子)] ○市川義人（オリンパスメディカルシステムズ（株））		

議事概要（背景･目的･成果･問題点など）（この欄は、見かけは 1 行ですが、所定欄に改行しながら最大 28 行まで記入できます。）

[背景･目的]2009 年 1 月に IEC 60601-2-2 Ed5 FDIS の投票が完了した。現在までに指摘された第 5 版の問題点の方向付け及び Guide61289（電気メスの使用とメンテナンス）の審議を行う。

[審議結果]

・今回多くの議論がなされたが、かなり難しい問題が多く結論に達していない項目が多かった。

・分割対極版の独立した測定方法、高周波外装漏れ電流の測定法方および限度値、アクティブアクセサリーの HF 漏れ電流の限度値の変更、アクセサリーへの保護の形式の表示、バイポーラアクセサリー（コネクタの統一）単極対極板の禁止、高電流手技のデューティーサイクルの規定、これらの議論に二日間費やした。次回の会議に再度審議項目として入れる事となった。

・P コードの曲げ試験は、米国メンバーが作成することとなった。メカインプラントへの警告の要求事項は UK,US で案を作成することとなった。

・現在 SC62A/MT23 で作成中の EMC 規格に関して問題点を日本が解説し、各国の国内委員会に持ち帰り協力してくれる事となった。

・GUIDE61289（これまで使用とメンテナンスがそれぞれ独立したガイドだったが、今回これを統合して一つのガイドとし、全子項目の審議及び修正が終了した。

[次回会議] 2010 年 10 月に米国シアトルもしくは 2010 年 4 月コスタリカで開催する。

[注]：1. 該当者は、出席会議終了後 [6 週間以内] に国際会議担当委員経由で、国際標準化対応支援委員会事務局宛ご提出下さい。
国際会議出席報告書の審議・承認の後に補助金を支払う。
会議終了後速やかに提出し、直近の運営委員会にて審議・承認を受けることが望ましい。
2. 本報告書は、同一会議に 2 名以上出席の場合、代表者が提出してください。
3. WG が TC/SC/TA と同時開催の場合は、WG 会議内容は TC/SC 報告に含めて報告書を提出して下さい。
4. 報告書の追加、訂正が生じた場合は、運営委員会開催後 1 週間以内に事務局に提出して下さい。
5. この報告書は、手続き完了後、JEITA ホームページ「国際標準化対応支援委員会」に掲載し、会員企業への報告に替えます。

国際標準化対応支援委員会事務局：(社)電子情報技術産業協会　知的基盤部標準･安全グループ
〒101-0065 東京都千代田区西神田 3-2-1（千代田ファーストビル南館）　Tel：03-5275-7259　Fax：03-5212-8122

(TSC-06 様式 2008.1)

様式 4

（社）電子情報技術産業協会　　運営委員会・資料番号：2-3／TC80-①（事務局記入）
国際標準化対応支援委員会　御中

提出日：2009 年 5 月 21 日

（報告者記載）整理番号：H21TC80⑪

国際会議出席報告書

国際会議担当委員名：矢内　崇雅　報告書作成者氏名：　矢内　崇雅　（会社名）沖電気工業（株）

出席会議名（半角）	区　分	組織番号 (TC/SC/TA)	TC80（半角）
WG14	☐TC ☐SC ☐TA ☒WG ☐PT ☐その他		
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他	名　称（日本語）	船用航海および無線通信装置とシステム
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他		
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他	☒単独開催　☐同時開催	
開催期日	2009 年 5 月 4 日 ～ 2009 年 5 月 8 日		
開催場所	（国名）米国	（都市名）セントピータースバーグ	
ﾁｪｱﾏﾝ／ｺﾝﾍﾞﾅ	Alan Stewart	幹事国　UK	
参加国及び参加人数	5ヶ国、主な国名 日本、米国、ｽｳｪｰﾃﾞﾝ、ﾄﾞｲﾂ、ﾉｰﾙｳｪｰ、、参加人数（15）		
日本人出席者名（会社名）	[○：補助対象者･･･（例）：○ 電子太郎(JEITA 電子)] ○古山 賢二(日本無線)、○矢内 崇雅(沖電気工業)		

議事概要（背景･目的･成果･問題点など）（この欄は、見かけは1行ですが、所定欄に改行しながら最大28行まで記入できます。）

1背景　海上交通における航行安全、船舶識別及びセキュリティの有効手段として、AIS の普及促進と性能向上が IMO にて推進されている。

2　目的　（1）80/557/CDV として回章された IEC61097-14　Ed.1　AIS-SART に対する参加各国での審議状況を確認し、Resolution 会議の日程に反映させる。（2）前回のサラソータ会議にて作成した IEC61993-2　Ed.2 の CDV（案）への精緻化作業を行う。（3）2009 年 9 月開催の TC80 総会に向けた対応と今後の会議スケジュール化を行う。

3　成果：（1）IEC61097-14　Ed.1　AIS-SART　CDV に関する各国での審議状況について、参加委員での把握状況が適切でないため、コメント状況の審議は出来ず、CDV　Resolution 会議を原則 8 月 24 日～28 日 Sweden　Norrkopping での開催とした。尚、日本からのコメント案として 23 項目が挙げられている。

（2）今回の会議にて IEC61993-2　Ed.2　クラス A-AIS の CDV（案）としての検討作業を終わらせるとしていたが、以下の審議状況の結果から当初予定した 2009 年 6 月頃の CDV 回章を延期することになった。

①PI センテンスとして新たなセンテンスの定義、既存の SOLAS 船舶と基地局 AIS 用センテンスの改訂に対する WG6 との整合が必要とのWG6 メンバーからのコメントにて、WG6 の 6 月会議にて審議がされるように Liaison を作成する事とした。

②整合項目として残されていた、・Splitting the Intermod and Blocking tests、・TX Power Mask 、・Test for immunity to out of band energy 、・Co-Channel test 、・Adjacent channel selectivity 等の無線部分に関する要求及びテスト仕様についての精緻化と全体的な Editorial な見直しを行い、無線部分としての結論を得た。

③機能・性能要件とテスト仕様について、・内部外部の GNSS の精度比較における処理方法、・Time　Stamp=60 の処理等審議結果を踏まえて全体的な確認作業を行い、改訂版を完成させた。

④Cnvenor にて今回の審議結果の内容を踏まえての整理された CD を Output として FTP サイトへの投函がされる。各委員は FTP にての Output 文書を確認し、メールにてコメントを Convenor に返すことが要求された。

（3）TC80 総会への NP としての候補案件の議論がされ、①Airborne-AIS：米国委員から要件の説明があり、ITU-R　M.1371-3 との関連から、6 月の IALA　AIS-TWG 会議への Liaison を出すことになった。②クラス B　AIS"SO"に関してスウェーデン委員から NP と同時の CDV の回章を希望しているとして、Correspondence　Group のボランティアが提案されたが、CDV 回章には当該 WG での検討がないとして、NP と現行の CD での回章が適当とした。

4　次回会議は 8 月 24 日～28 日　Sweden　Norrkopping、次々回の会議は 12 月 14 日～18 日　日本　東京とした。

[注]：1. 該当者は、出席会議終了後 [6週間以内] に国際会議担当委員経由で、国際標準化対応支援委員会事務局宛ご提出下さい。
国際会議出席報告書の審議・承認の後に補助金を支払う。
会議終了後速やかに提出し、直近の運営委員会にて審議・承認を受けることが望ましい。
2. 本報告書は、同一会議に2名以上出席の場合、代表者が提出してください。
3. WG が TC/SC/TA と同時開催の場合は、WG 会議内容は TC/SC 報告に含めて報告書を提出して下さい。
4. 報告書の追加、訂正が生じた場合は、運営委員会開催後1週間以内に事務局に提出して下さい。
5. この報告書は、手続き完了後、JEITA ホームページ「国際標準化対応支援委員会」に掲載し、会員企業への報告に替えます。

国際標準化対応支援委員会事務局：(社)電子情報技術産業協会　知的基盤部標準･安全グループ

（社）電子情報技術産業協会　　運営委員会・資料番号 2-3／TC87-①（事務局記入）　　様式 4

国際標準化対応支援委員会　御中

提出日：2009 年 6 月 11 日

（報告者記載）予算番号：H21TC87①

国際会議出席報告書

国際会議担当委員名：内山 進　報告書作成者氏名：内藤　みわ　（会社名）アロカ株式会社

出席会議名（半角）	区　分	組織番号（TC/SC/TA）	TC87（半角）
TC87/WG14	□TC □SC □TA ☒WG □PT □その他		
	□TC □SC □TA □WG □PT □その他	名　称（日本語）	超音波
	□TC □SC □TA □WG □PT □その他		
	□TC □SC □TA □WG □PT □その他	□単独開催 ☒同時開催	
開催期日	2009 年 5 月 11 日 ～ 2009 年 5 月 12 日		
開催場所	（国名）韓国	（都市名）ソウル	
ﾁｪｱﾏﾝ／ｺﾝﾍﾞﾅ	Adam Shaw	幹事国　イギリス	
参加国及び参加人数	10 ヶ国、主な国名 アメリカ、イギリス、ドイツ、オランダ、イタリア、日本、参加人数（27）		
日本人出席者名（会社名）	[○：補助対象者･･･（例）：○ 電子太郎(JEITA 電子)] ○内藤みわ（アロカ）、岸本眞治（日立メディコ）		

議事概要（背景･目的･成果･問題点など）（この欄は、見かけは 1 行ですが、所定欄に改行しながら最大28 行まで記入できます。）

背景及び目的　WG14 は、超音波音場の照射量及び安全性に関係した文書の作成を行う。超音波診断装置の音響出力の照射量の見積のための補正方法や超音波による温度上昇の測定方法を検討し、リスクマネジメントに役に立つガイダンスを作成する。

内容

1．有限振幅超音波ビームの媒質中の照射量推定に関する IEC TS61949:2007 については前回会議で実験を提案した委員が結果を 8 月末までにまとめてプロジェクトメンバーに送付することになった。実験結果を見て必要があれば日本も追加実験を行う。HITU（強力集束治療用超音波）の音場測定でも採用の動きがあり、IS に格上げされる可能性がある。より妥当な方法を検討していく必要がある。

2．超音波診断装置は安全性個別規格 IEC 60601-2-37:2007 でリスクマネジメントが求められている。その参考となる文書として技術レポートの形式でリスクマネジメントのガイダンス文書を作成する。今回はアウトラインを審議した。メーカ委員中心のプロジェクトチームで検討し 10 月末に改訂ドラフトを用意して次回 WG で議論する。

3．空中及びファントム中の赤外線測定方法 TS は前回会議で日本がプレゼンテーションを行って新規項目として取り上げることになっていた。今回も日本のメーカ 8 社による実験結果をプレゼンテーションして好意的な印象を持たれた。しかし、TS の範囲はファントム内部だけでなく空中でのプローブ表面温度の測定も含めることになった。今まで東芝メディカルシステムズの山崎氏が中心となって取り組んできたが、今回出席できなかったため、新規項目提案を日本が出すかどうかは保留とした。今後 TC87 日本委員会での取り組み方を検討していくが、作業の負荷を考慮するとプロジェクトリーダーはコンビナーにお願いして技術的な補助を行うのが現実的と思われる。

4．熱的ハザードの評価モデルは TR の形式で再度見直しした後、投票用 DTR が 8 月頃の見込みである。将来 IEC 62359 Ed.3 で考慮される可能性があるため、内容の吟味が必要である。

次回会議開催：場所は未定だが、2010 年 1 月か 2 月に WG8 などと一緒に開催する予定。

[注]：1. 該当者は、出席会議終了後 [6週間以内] に国際会議担当委員経由で、国際標準化対応支援委員会事務局宛ご提出下さい。
国際会議出席報告書の審議・承認の後に補助金を支払う。
会議終了後速やかに提出し、直近の運営委員会にて審議・承認を受けることが望ましい。
2. 本報告書は、同一会議に 2 名以上出席の場合、代表者が提出してください。
3. WG が TC/SC/TA と同時開催の場合は、WG 会議内容は TC/SC 報告に含めて報告書を提出して下さい。
4. 報告書の追加、訂正が生じた場合は、運営委員会開催後1週間以内に事務局に提出して下さい。
5. この報告書は、手続き完了後、JEITA ホームページ「国際標準化対応支援委員会」に掲載し、会員企業への報告に替えます。

国際標準化対応支援委員会事務局：(社)電子情報技術産業協会　知的基盤部標準･安全グループ
〒101-0065 東京都千代田区西神田 3-2-1（千代田ファーストビル南館）　Tel：03-5275-7259　Fax：03-5212-8122

様式 4

（社）電子情報技術産業協会　　運営委員会・資料番号：2-3／TC87-②（事務局記入）
国際標準化対応支援委員会　御中

提出日：2009 年 6 月 11日

（報告者記載）予算番号：H21TC87①

国際会議出席報告書

国際会議担当委員名：内山 進　報告書作成者氏名：岸本眞治　（会社名）日立メディコ

出席会議名（半角）	区分	組織番号 (TC/SC/TA)	TC87 (半角)
TC87/WG9 (Ex)	☐TC ☐SC ☐TA ☒WG ☐PT ☐その他		
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他	名称 (日本語)	超音波
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他		
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他	☐単独開催 ☒同時開催	
開催期日	2009 年 5 月 13 日 ～ 2009 年 5 月 14 日		
開催場所	（国名）韓国	（都市名）ソウル	
ﾁｪｱﾏﾝ／ｺﾝﾍﾞﾅ	Jhon G Abbott / Peter Edmonds	幹事国 英国	
参加国及び参加人数	8ヶ国、主な国名 米、英、蘭、独、チェコ、伊、中、韓、日、参加人数（19）		
日本人出席者名（会社名）	[○：補助対象者･･･（例）：○ 電子太郎(JEITA 電子)] ○岸本眞治（日立メディコ）		

議事概要（背景･目的･成果･問題点など）（この欄は、見かけは1行ですが、所定欄に改行しながら最大28 行まで記入できます。）

背景と目的：WG9 は、超音波診断装置の試験方法に関連する文書の作成を行う。現在 IEC 61391-2「画像が得られる最大深度と局所ダイナミックレンジの計測方法」と、施設が始業点検に用いる IEC 62558 TS「3次元的信号対雑音比の試験方法と自動的評価方法、およびその試験用ファントム」が審議対象である。

1. IEC 61391-2 (87/400/CDV) (画像が得られる最大深度と局所ダイナミックレンジの測定方法)
87/400/CDV は、2009/4/3 に投票が締め切られ賛成 100%で承認された。 ドイツ、オランダ、ロシア、日本は、賛成だがコメントがある旨の投票を行っている。日本は、局所ダイナミックレンジの測定方法として当該機器の送受信信号を使用すべきと考え「外部機器から超音波探触子に微弱超音波を入力する検査方法」を Annex に移行し、ファントムを用いる測定方法を本文に規定する提案を行ったが、同意を得られなかった。 本 CDV は、2009/7 月末に IS として発行される予定。WG9 初の IS 発行となる。

2. IEC 62558 TS（87/402/CD）(信号対雑音比の試験方法と自動評価方法、およびその試験用ファントム)
87/402/CD は、2009/2/13 投票が締め切られ、賛成3、反対9、棄権5でコンセンサスは得られていない。本 TS は、ファントムを用いて断層像から信号対雑音比を定量評価する方法であるが、実験室レベルの色彩が濃く、製品評価には課題が多く残っている。ファントムの組成や製造方法も規定されておらず、TS としては不十分な状況。TS タイトルを「信号対雑音比の試験方法と自動評価方法、およびその試験に用いる円柱状、アーティフィシャルな腫瘍を含んだ組織模擬ファントム」とし、今回の審議結果を反映して、CD を 2009/9 月末までに作成することとなった。

3.その他事案：IEC 62563-1（62B/743/CDV）（医用電気機器-画像表示システム(ディスプレー)の評価方法）
SC62B で IS 作成が進んでいる IEC 62563-1「医用電気機器 - 画像表示システム(ディスプレー)の評価方法」(62B/743/CDV)では、CT、X 線機器などを含む全ての医療用画像表示システムの評価方法を規定しているため、超音波診断装置に対しては過剰な評価方法となっている。超音波診断装置の表示システム(ディスプレー)の評価手法を SC62B とのジョイントワーキングで NP 提案する事で合意した。

[注]：1. 該当者は、出席会議終了後[6週間以内]に国際会議担当委員経由で、国際標準化対応支援委員会事務局宛ご提出下さい。
国際会議出席報告書の審議・承認の後に補助金を支払う。
会議終了後速やかに提出し、直近の運営委員会にて審議・承認を受けることが望ましい。
2. 本報告書は、同一会議に2名以上出席の場合、代表者が提出してください。
3. WG が TC/SC/TA と同時開催の場合は、WG 会議内容は TC/SC 報告に含めて報告書を提出して下さい。
4. 報告書の追加、訂正が生じた場合は、運営委員会開催後1週間以内に事務局に提出して下さい。
5. この報告書は、手続き完了後、JEITA ホームページ「国際標準化対応支援委員会」に掲載し、会員企業への報告に替えます。

国際標準化対応支援委員会事務局：(社)電子情報技術産業協会　知的基盤部標準･安全グループ
〒101-0065 東京都千代田区西神田 3-2-1（千代田ファーストビル南館）　Tel：03-5275-7259　Fax：03-5212-8122

様式 4

（社）電子情報技術産業協会　　運営委員会・資料番号：2-3／TC91-①（事務局記入）
国際標準化対応支援委員会　御中

提出日：2009 年 5 月 25 日

（報告者記載）予算番号：H21 TC91①

国際会議出席報告書

国際会議担当委員名：荒金　秀幸　　報告書作成者氏名：　梅垣　淳一　（会社名）日本電気株式会社

出席会議名（半角）	区　分	組織番号（TC/SC/TA）	TC91（半角）
TC91/WG2	☐TC ☐SC ☐TA ☒WG ☐PT ☐その他		
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他	名　称（日本語）	電子実装技術
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他		
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他	☐単独開催　☒同時開催	
開催期日	2009 年 5 月 22 日 ～ 2009 年 5 月 22 日		
開催場所	（国名）フランス	（都市名）グルノーブル	
ﾁｪｱﾏﾝ／ｺﾝﾍﾞﾅ	D. Bergman （米国）	幹事国　日本	
参加国及び参加人数	4ヶ国、主な国名 日本、米国、ドイツ、韓国、参加人数（15）		
日本人出席者名（会社名）	[○：補助対象者･･･（例）：○ 電子太郎(JEITA 電子)] 山本克己（テクノオフィスヤマモト）、○荒金秀幸（ソニー）、○梅垣淳一（NEC）、于強（横浜国立大学）、鶴田加一（溶接協会）、萩尾告一（ニホンゲンマ）、芹沢弘二（日立製作所）、柴田明一（JPCA）、前嶋和彦（TC91 国際幹事）		

議事概要（背景･目的･成果･問題点など）（この欄は、見かけは1行ですが、所定欄に改行しながら最大28行まで記入できます。）

日本提案のボイド評価基準は FDIS 案を最終合意し FDIS 段階へ進むこととなった。フロー実装用鉛フリーはんだ材料追加等を盛り込んだ鉛フリーはんだ材料改定案は CDV 投票待ち。はんだ付け品質基準は DC 文書を発行してスタートすることとなった。

1）IEC 61191-6：ボイド評価基準の FDIS 案の最終確認

・サンノゼ会議の審議結果に基づき作成した FDIS 案につき審議し、各国コメントに対する observation を確定した。席上、米国委員から、規格の中心である表 3 および表 4 の内容変更及び付録への移動の提案があり、日本からはすでに審議合意済みである旨主張したが聞き入れられず、投票の結果、同変更・移動提案が採択された。同審議結果に基づき FDIS 案を作成し、最終投票にかける。

2）IEC 61190-1-3：鉛フリーはんだ材料の改訂の CDV 文書を紹介

・日本提案のフロー実装用低銀鉛フリーはんだの追加を主な内容とする改訂作業の CDV 文書につき説明した。サンノゼ会議で追加された、実装基板への鉛フリー表示の記載も含まれている。投票期限は 7 月 10 日。現時点では、韓国代表も含め特段のコメントはなかった。

3）IEC-61191s and 61192s のメンテナンス

・「はんだ付け品質基準（61191s と 61192s）の改訂」は-1、-2 からはじめることを確認し、DC 文書を発行して各国意見を求めていく。（締め切り 7 月末）改訂点は、鉛フリー対応と引用文書 update など。日本も改訂作業を分担する方向。

4）Pj#61190-1-4：導電性接着剤の材料と選定方法

・以前からコンベナが強く主張している導電性接着剤の材料と選定について、ドイツから、産業界では各社が独自に開発を進めており、ノウハウも多く標準化には尚早との意見が出された。日本からは、別途報告のとおり研究開発は進行中であるが、材料・選定の標準化フェーズにはない旨コメントした。コンベナからは次回進捗報告の依頼があった。

5）次回会議

・2009 年 10 月 8 日（木）ベルリン。2010 年は 5 月最終週に日本開催の予定

[注]：1. 該当者は、出席会議終了後[6週間以内]に国際会議担当委員経由で、国際標準化対応支援委員会事務局宛ご提出下さい。
国際会議出席報告書の審議・承認の後に補助金を支払う。
会議終了後速やかに提出し、直近の運営委員会にて審議・承認を受けることが望ましい。
2. 本報告書は、同一会議に2名以上出席の場合、代表者が提出してください。
3. WG が TC/SC/TA と同時開催の場合は、WG 会議内容は TC/SC 報告に含めて報告書を提出して下さい。
4. 報告書の追加、訂正が生じた場合は、運営委員会開催後1週間以内に事務局に提出して下さい。

（社）電子情報技術産業協会　　運営委員会・資料番号：2-3／TC91-②（事務局記入）

様式 4

国際標準化対応支援委員会　御中

（事務局記載）　整理番号：H21TC91①（半角）

提出日：　2009 年 6 月 5 日

IEC 国際会議出席報告書

TC/SC/TA 担当委員名：荒金　秀幸　　報告書作成者氏名：　春日　壽夫　（会社名）NEC ｴﾚｸﾄﾛﾆｸｽ(株)

会議名（半角）	区分	組織番号（TC/SC/TA）	TC91
TC91/WG3	☐TC ☐SC ☐TA ☒WG ☐PT ☐その他		
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他	名称（日本語）	電子実装技術
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他		
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他	☐単独開催　☒同時開催	
開催期日	2009 年 5 月 21 日 ～ 2009 年 5 月 21 日		
開催場所	（国名）フランス	（都市名）グルノーブル	
ﾁｪｱﾏﾝ／ｺﾝﾍﾞﾅ	春日 壽夫（日本）	幹事国　日本	
参加国	5 ヶ国、主な国名 日本、ドイツ、英国、フィンランド、米国、　（16 名）		
日本出席者	○大島(ニチコン)、○芹沢（日立）、○山本（オフィス山本）、○春日（WG3 国際コンビナ：NEC エレクトロニクス）、萩尾（日本ゲンマ）、荒金（ソニー）、梅垣（NEC）、気賀（ソニー）、柴田（JPCA）、前嶋（TC91 国際幹事：ソニー）		

議事概要（背景･目的･成果･問題点など）

1．目的：電子実装技術にかかわる実装後の試験方法につき審議している。

2．成果：TC91WG3（電子実装技術/試験方法）国際会議

●鉛フリーはんだに関する標準化提案

[IS 3 件：日本担当、審議 6 件中：日本担当 4 件＋1 件共同リーダ、新規提案 2 件中：日本 1 件]

1)IS：IEC 62137-1-3 Ed.1:落下試験、-4 Ed.1: 繰り返し折り曲げ試験、-5 Ed.1: 機械的せん断疲労試験

2)審議文書：

①IEC 60068-2-44 Ed.2(リーダ：ドイツ／はんだ付け試験のガイドライン)：MRD を 2010 年に延期、MRC 提出予定

②IEC 6-0068-2-58 Ed.4（リーダ：大島／はんだ耐熱性試験)：91/799/INF：5/25 に WD 回覧

③IEC 60068-2-83 Ed.1(リーダ：大島／SMD のはんだ付け性試験・ソルダペーストを用いる平衡法)：91/846/CD：2009/9 に CDV ドラフト作成

④IEC 62137-3 Ed.1（リーダ：山本／IEC62137 部品接合強度試験方法のガイダンスドキュメント)：91/855/RVN：6/10 に CD を回覧

⑤IEC 61189-11 Ed.1(リーダ:萩尾／はんだ融点試験方法)：91/867/RNV：6/20 に CD ドラフトが送付

⑥IEC 60068-2-82 Ed.1(リーダ：坂本、ドイツウイスカー試験方法)：91/848/DC：タイトル変更につき、IEC-CO に他の IS に Title が記載されているかどうかを確認することになった。

3)その他新提案予定

①ウィスカ発生における外部機械的応力（リーダ：坂本、ドイツ）[PWI]

②電気化学マイグレーション（リーダ：ドイツ）[PWI]

3．次回会議

②2009 年 10 月 6 日午後～7 日午後、ドイツ／ベルリン(IEC/TC91 全体会議と同期開催)

[注]：1. 該当者は、出席会議終了後[6週間以内]に国際会議担当委員経由で、国際標準化対応支援委員会事務局宛ご提出下さい。
国際会議出席報告書の審議・承認の後に補助金を支払う。
会議終了後速やかに提出し、直近の運営委員会にて審議・承認を受けることが望ましい。
2. 本報告書は、同一会議に2名以上出席の場合、代表者が提出してください。
3. WG が TC/SC/TA と同時開催の場合は、WG 会議内容は TC/SC 報告に含めて報告書を提出して下さい。

様式 4

（社）電子情報技術産業協会　　運営委員会・資料番号：2-3／TC91-③（事務局記入）
国際標準化対応支援委員会　御中

提出日：2009 年 6 月 2 日

（報告者記載）予算番号：H21TC91①

国際会議出席報告書

国際会議担当委員名：荒金　秀幸　報告書作成者氏名：　気賀智也　（会社名）ソニーイーエムシーエス株式会社

出席会議名（半角）	区　分	組織番号 (TC/SC/TA)	TC91（半角）
TC47WG2 / TC91WG3 Joint	□TC □SC □TA ☒WG □PT □その他		
	□TC □SC □TA □WG □PT □その他	名　称（日本語）	電子実装技術
	□TC □SC □TA □WG □PT □その他		
	□TC □SC □TA □WG □PT □その他	□単独開催 ☒同時開催	
開催期日	2009 年 5 月 22 日 ～ 2009 年 5 月 22 日		
開催場所	（国名）フランス	（都市名）グルノーブル	
ﾁｪｱﾏﾝ／ｺﾝﾍﾞﾅ	春日壽夫	幹事国　日本	
参加国及び参加人数	4 ヶ国、主な国名 米国、フィンランド、ドイツ、日本、参加人数（7）		
日本人出席者名（会社名）	[○：補助対象者･･･（例）：○ 電子太郎(JEITA 電子)] ○気賀智也(ソニー)、春日(NEC)、大島(ニチコン)		

議事概要（背景･目的･成果･問題点など）（この欄は、見かけは 1 行ですが、所定欄に改行しながら最大 28 行まで記入できます。）

会議名:TC91WG3-TC47WG2 国際合同会議

1．目的：TC91WG3(電子実装技術/測定方法)と TC47WG2(半導体/信頼性技術)との間で、共通測定方法について双方で内容・進捗の確認をし、必要に応じて調整を図る。

2．成果

①はんだ付け・はんだ耐熱試験関係

はんだ付け試験では，試験温度を部品種によらず，はんだ合金ごとに決める必要がある。試験規格間で差異がないかを確認する。はんだ耐熱試験では，同じ工程を流れるか部品ごとに受ける影響が異なるため，半導体の規格を全ての部品に適用できないことで認識が一致した。

②実装後（ボードレベル）の落下試験に関して

TC47 側の進捗報告：2 種類を審議中であり、加速度計を用いた試験は近く発行予定。他のひずみゲージを用いた試験方法に関してはCD審議中であり、6 月末に投票期限を迎える。

TC91 側の進捗報告：共通試験方法でるひずみゲージを用いた試験方法に関しては昨年末に IS 発行済み

③ウィスカ試験：TC47 側から、IEC/PAS 62483 を JEDEC 規格（JESD201A と JESD22-A121A）に基づいた NP 提案する旨の説明あり。ドラフト案の提示があったが内容が相当量あり、詳細確認の時間が確保できなかったため会議後、3 ヶ月の期間で内容確認によるコメント等を TC91 側から TC47 側に伝える旨を確認した。

④関連する TC 間での調整

関連する TC 間の調整は，従来 ASET の組織で対応していたが，数年前に廃止された。TC 間での調整又は合同作業の必要があることで認識が一致した。関連 TC 間で，合同 WG を設置して対応することを中央事務局に提案する。

[注]：1. 該当者は、出席会議終了後 6 週間以内 に国際会議担当委員経由で、国際標準化対応支援委員会事務局宛ご提出下さい。
国際会議出席報告書の審議・承認の後に補助金を支払う。
会議終了後速やかに提出し、直近の運営委員会にて審議・承認を受けることが望ましい。
2. 本報告書は、同一会議に 2 名以上出席の場合、代表者が提出してください。
3. WG が TC/SC/TA と同時開催の場合は、WG 会議内容は TC/SC 報告に含めて報告書を提出して下さい。
4. 報告書の追加、訂正が生じた場合は、運営委員会開催後 1 週間以内に事務局に提出して下さい。
5. この報告書は、手続き完了後、JEITA ホームページ「国際標準化対応支援委員会」に掲載し、会員企業への報告に替えます。

(TSC-06 様式 2008.1)

様式 4

（社）電子情報技術産業協会　　運営委員会・資料番号：2-3／TC91-④（事務局記入）
国際標準化対応支援委員会　御中

提出日：2000年5月28日

（報告者記載）予算番号：H21TC91①

国際会議出席報告書

国際会議担当委員名：荒金　秀幸　　報告書作成者氏名：　前嶋　和彦　（会社名）ソニー［株］

出席会議名（半角）	区　分	組織番号 (TC/SC/TA)	TC91（半角）
TC91	□TC □SC □TA ☒WG □PT □その他		
	□TC □SC □TA □WG □PT □その他	名　称（日本語）	電子実装技術
	□TC □SC □TA □WG □PT □その他		
	□TC □SC □TA □WG □PT □その他	□単独開催 ☒同時開催	
開催期日	2009年5月21日 ～ 2009年5月22日		
開催場所	（国名）フランス	（都市名）グルノーブル	
ﾁｪｱﾏﾝ／ｺﾝﾍﾞﾅ	Dieter Bergman/Diter Bergman,H.Kasuga	幹事国　日本	
参加国及び参加人数	6ヶ国、主な国名 ドイツ、UK、USA、韓国、フィンランド、日本、参加人数（14）		
日本人出席者名（会社名）	［○：補助対象者･･･（例）：○ 電子太郎(JEITA電子)］ ○前嶋（ソニー）、梅垣（NEC）、山本（オフィス山本）、春日（NEC エレクトロニクス）、鶴田（千住金属）、萩尾（日本ゲンマ）、荒金（ソニー）、芹沢（日立）、柴田（JPCA）、大島［ニチコン］、気賀（ソニー）		

議事概要（背景･目的･成果･問題点など）（この欄は、見かけは1行ですが、所定欄に改行しながら最大28行まで記入できます。）

背景・目的：IEC/TC91 国際幹事として WG が策定・提案している IEC 規格文書の審議の運営と、規格文書の日本側の意向の反映と、日本からの提案文書の IEC 規格化への推進を図るためのサポートを行なう。

成果：＜IEC/TC91/WG3＞

前回（2008年10月、USA・サンノゼ開催）の議事録の確認が行なわれ、承認された。
下記プロジェクトの文書発行進捗の確認と一部の日程再検討が行なわれた。

①IEC 60068-2-44 Ed.2(環境試験　はんだ付け試験のガイドライン)
　MRD が 2010 年に延期、MRC が国際幹事に提出される予定

②IEC 6-0068-2-58 Ed.4(表面実装の耐はんだ溶解試験方法)
　文書進捗：91/799/INF：5月25日に WD が回覧される

③IEC 60068-2-83 Ed.1(表面実装部品の無鉛はんだ付け性試験)
　文書進捗：91/846/CD：2009年9月末までに CDV ドラフトを作成する

④IEC 62137-3 Ed.1(食んだ接合性試験方法を使用するためのガイダンス)
　文書進捗：91/855/RVN：6月１０日までに CD を回覧

⑤IEC 61189-11 Ed.1(はんだ融点試験方法)
　文書進捗：91/867/RNV：6月20日に CD ドラフトが国際幹事に送付される

⑥IEC 60068-2-82 Ed.1(ウイスカー試験方法)
　文書進捗：91/848/DC：IEC-CO に他の IS に Title が記載されているかどうかを確認する

＜IEC/TC91/WG2＞

前回［2008年10月、USA・サンノゼ開催］の議事録確認が行なわれ承認された。

①IEC 61191-6 Ed.1(ボイドの測定、評価法)
　文書進捗：91/766/CDV：6月末までに FDIS のドラフトが国際幹事に提出される。

②IEC 61190-1-3 Ed.2(鉛フリーはんだ材料)
　文書進捗：91/847/CDV：CDV が 2009年7月10日締め切りで回覧される

③IEC 61191 シリーズ、IEC 61192 シリーズ
　メンテナンス文書案を回覧してコメントを求めることとした

［注］：1. 該当者は、出席会議終了後［6週間以内］に国際会議担当委員経由で、国際標準化対応支援委員会事務局宛ご提出下さい。
国際会議出席報告書の審議・承認の後に補助金を支払う。
会議終了後速やかに提出し、直近の運営委員会にて審議・承認を受けることが望ましい。

様式 4

（社）電子情報技術産業協会　　運営委員会・資料番号：2-3／TC100-①（事務局記入）
国際標準化対応支援委員会　御中

提出日：2009 年 6 月 8 日

（報告者記載）予算番号：H21TC100①A

国際会議出席報告書

国際会議担当委員名：向井 幹雄　報告書作成者氏名：江崎 正　（会社名）ソニー株式会社

出席会議名（半角）	区分	組織番号 (TC/SC/TA)	TC 100 (半角)
TC 100 AGM	□TC □SC □TA □WG □PT ☒その他		
	□TC □SC □TA □WG □PT □その他	名称 (日本語)	オーディオ、ビデオ、マルチメディアシステム及び機器、運営諮問委員会
	□TC □SC □TA □WG □PT □その他		
	□TC □SC □TA □WG □PT □その他	☒単独開催 □同時開催	
開催期日	2009 年 5 月 21 日 ～ 2009 年 5 月 21 日		
開催場所	（国名）米国	（都市名）ワシントンDC	
ﾁｪｱﾏﾝ／ｺﾝﾍﾞﾅ	Mr. Mark Hyman	幹事国　日本	
参加国及び参加人数	6ヶ国、主な国名 日、米、英、芬、韓、蘭□、参加人数（19）		
日本人出席者名（会社名）	[○：補助対象者･･･（例）：○ 電子太郎(JEITA 電子)] 平川(東芝)、小町（大工大）、○由雄（パイオニア,, TA11 TAM）、○向井（ソニー, TA6, 7, 10 TS）、○江崎（ソニー, TC100/AGM 幹事,TC100 ATS）		

議事概要（背景･目的･成果･問題点など）（この欄は、見かけは 1 行ですが、所定欄に改行しながら最大28 行まで記入できます。）

TC 100 AGM は TC 100 のオフィサーが集まり運営について審議、決定を行なう委員会である。TC 100 の活動に極めて重要な役割を担っており、幹事国として適切に運営を行なった。主な議事は以下の通り。

・TA 4 (デジタル・インターフェース), TA 9 (AV Multimedia のホームネットワーク)の TAM が退任することになり、TA 9 は米国 James Williamson 氏（米 Sony）が後任となる。TA 4 は未定。日本からの選出も可能性あり。
・省エネに関する新 TA の設置が了承された。TAM は Jon Fairurst 氏 (米 Sharp Lab.)、TS は伊賀氏（東芝）の予定
・TC 108 と TC 100 の役割分担について　TC 108 のオフィサーと平川幹事が打合せをし、TC 108 は Requirement、TC 100 は Performance に関する規格化を担当することで合意したとの報告があった。TC 100 の Scope に ICT 機器を含めていくことで合意された。Scope の変更について、各国の意見を求め、Tel Aviv で TC 100 の承認を得る。
・1906 Award　日本からは鳥羽氏（東芝キャリア）、飯田氏（電通）の 2 名が受賞の予定
・仏語版の対応　SMB でフランスから仏語版の処理について提案があった件、幹事団がフランス NC 担当者と交渉、従来通り、英語版のみでの回覧で進めることを確認した。CD、CDV、FDIS について仏に Word 文書を送付する。
・DMT　TC 100 の Procedure を ISO/IEC Directives の IEC Supplement に入れ込むことになり、幹事が DMT 関係者と打合せを持ったとの報告があった。今後、TC 100 Guidelines and Procedure を並行して改訂していく。
・Normative reference のルール　Normative reference に載せてよい団体についてのルールを幹事国として提案した。合意された団体のリストを作るもの。ITU-R、ITU-T、AES、SMPTE、IEEE は最初からリストに載せる。
・日本提案のオーディオ・アーカイブに関する Stage 0 Project を TA 7 に設置することで了解された。
・NP のアロケーション　4 件の NP について担当する TA を決めた。
・ポータブル機器用バッテリーチャージャーインターフェース　フィンランド（Nokia）から迅速法提案された案件。Micro-USB と 2mm 丸型プラグジャックの提案であるが、既定方針通り 2mm のプラグジャックについて、通常の手続き（CD から）で進めることで合意した。SC 48B で規定しているジャックへの誤挿入が問題。
・DLNA Part 3（Link Protection）の NP 提案について迅速法で進めることで合意した。

議事はほぼ日本の予定通りに進めることができた。次回は 2009-10 に Tel Aviv、次々回は 2010-5 に Athens の予定。

[注]：1. 該当者は、出席会議終了後 [6週間以内] に国際会議担当委員経由で、国際標準化対応支援委員会事務局宛ご提出下さい。
国際会議出席報告書の審議・承認の後に補助金を支払う。
会議終了後速やかに提出し、直近の運営委員会にて審議・承認を受けることが望ましい。
2. 本報告書は、同一会議に 2 名以上出席の場合、代表者が提出してください。
3. WG が TC/SC/TA と同時開催の場合は、WG 会議内容は TC/SC 報告に含めて報告書を提出して下さい。
4. 報告書の追加、訂正が生じた場合は、運営委員会開催後1週間以内に事務局に提出して下さい。
5. この報告書は、手続き完了後、JEITA ホームページ「国際標準化対応支援委員会」に掲載し、会員企業への報告に替えます。

国際標準化対応支援委員会事務局：(社)電子情報技術産業協会　知的基盤部標準･安全グループ

様式 4

（社）電子情報技術産業協会　　運営委員会・資料番号：2-3／TC100-②（事務局記入）
国際標準化対応支援委員会　御中

提出日：2009 年 6 月 8 日

（報告者記載）予算番号：H21TC100②

国際会議出席報告書

国際会議担当委員名：向井 幹雄　報告書作成者氏名：平川 秀治　（会社名）（株）東芝

出席会議名（半角）	区分	組織番号（TC/SC/TA）	TC 100（半角）
TC 100 AGS	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☒その他		
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他	名称（日本語）	AV マルチメディアシステム及び機器
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他		
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他	☒単独開催 ☐同時開催	
開催期日	2009 年 5 月 20 日 ～ 2009 年 5 月 20 日		
開催場所	（国名）米国	（都市名）ワシントンDC	
ﾁｪｱﾏﾝ／ｺﾝﾍﾞﾅ	小町祐史	幹事国　日本	
参加国及び参加人数	6 ヶ国、主な国名 日本、米国、連合王国、オランダ、フィンランド、韓国、参加人数（20）		
日本人出席者名（会社名）	[○：補助対象者･･･（例）：○ 電子太郎(JEITA 電子)] ○平川(東芝)、小町（大工大）、由雄（パイオニア）、向井（ソニー）、江崎（ソニー）		

議事概要（背景･目的･成果･問題点など）（この欄は、見かけは 1 行ですが、所定欄に改行しながら最大28 行まで記入できます。）

TC 100 AGS は AV とマルチメディア分野の Sector Board であり、委員は SMB の承認が必要であり、結果は SMB に直接入力される。今回は、新 H1N1 Flu の影響があり、中国 1 名、日本 2 名が欠席した。会議の決定事項は下記の通りである。

1. 池田先生の TC 100 object ID についての Stage 0 プロジェクトを進めて次回、報告すること。
2. AGS は韓国が進めている T-DMB 受信機の共通 API のユーザ要求を確認し、NP を TA1 に出す様に勧告
3. Talmola さんの mobile-TV サービスとマーケット分析についてのプレゼンに感謝し、次回も報告する様に勧告
4. Hyman さん(または SMPTE の適当な方)に SMPTE と ISO TC 36 のデジタルシネマを報告する様に勧告
5. Markwalter さんの CEA での 3D adhoc 報告に感謝し、引き続き CEA の活動を報告する様に勧告.
6. 由雄さんの TC 100 セキュリティ関連 100/AGS345 を検討し、AGM で審議する様に送付
7. Energy Efficiency の Ad-Hoc グループ報告に感謝し、新 TA を作る様に 100/AGS355 を AGM に送付
8. 電池充電に関する Talmola さんの報告、LVDC、Smart Grid にちて南さんの代理で説明した平川さん、韓国のエネルギィ有効利用に関する政策の報告に感謝
9. AGS は TA 8 が進めている許諾コードの ITU-T との Twin Text 手法の有効性を確認した
10. AGS は平川さんが推進している ITU-T、JTC 1、ETSI との High Level 会合と、その Ad-Hoc による標準化の共同開発活動を賞賛し、さらに推進する様に勧告
11. AGS は由雄さんが提案した IPTV と PC ハードウェア他の TC 100 標準化モデルの重要性を認識し NP を作成する様に勧告
12. AGS は、TC 100 と TC 108 の協調体制の明確化が行われたことを確認し、AGM に TC 100 の Scope 見直し案を検討する様に勧告
13. AGS は、Baronas さんに TC 100 の Accessibility についての情報を更新して、報告する様に要請した

次回は、本年 10 月のテルアビブ会合と同時開催の TC 100 総会の前に開催する。

[注]：1. 該当者は、出席会議終了後 [6 週間以内] に国際会議担当委員経由で、国際標準化対応支援委員会事務局宛ご提出下さい。
国際会議出席報告書の審議・承認の後に補助金を支払う。
会議終了後速やかに提出し、直近の運営委員会にて審議・承認を受けることが望ましい。
2. 本報告書は、同一会議に 2 名以上出席の場合、代表者が提出してください。
3. WG が TC/SC/TA と同時開催の場合は、WG 会議内容は TC/SC 報告に含めて報告書を提出して下さい。
4. 報告書の追加、訂正が生じた場合は、運営委員会開催後 1 週間以内に事務局に提出して下さい。
5. この報告書は、手続き完了後、JEITA ホームページ「国際標準化対応支援委員会」に掲載し、会員企業への報告に替えます。

国際標準化対応支援委員会事務局：(社)電子情報技術産業協会　知的基盤部標準･安全グループ
〒101-0065 東京都千代田区西神田 3-2-1（千代田ファーストビル南館）　Tel：03-5275-7259　Fax：03-5212-8122

様式 4

（社）電子情報技術産業協会　　運営委員会・資料番号：2-3／TC100-③（事務局記入）
国際標準化対応支援委員会　御中

提出日：2009 年 6 月 01 日

（報告者記載）予算番号：H21TC100⑥

国際会議出席報告書

国際会議担当委員名：向井幹雄（ソニー）　報告書作成者氏名：平川 秀治　（会社名）（株）東芝

出席会議名（半角）	区分	組織番号（TC/SC/TA）	TC 100（半角）
TC 100 High Level Meeting Ad-Hoc	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☒その他		
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他	名称（日本語）	AV マルチメディアシステム及び機器
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他		
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他	☒単独開催 ☐同時開催	
開催期日	2009 年 5 月 1 日 ～ 2009 年 5 月 1 日		
開催場所	（国名）スイス連邦	（都市名）ジュネーブ	
ﾁｪｱﾏﾝ／ｺﾝﾍﾞﾅ	Mark Hyman	幹事国　日本	
参加国及び参加人数	3ヶ国、主な国名 日本、スイス、米国、参加人数（ 9 人 ）		
日本人出席者名（会社名）	[○：補助対象者・・・（例）：○ 電子太郎(JEITA 電子)] ○平川秀治(東芝、IEC)、内藤悠史（三菱電機、ITU-T）、川森雅人（NTT、ITU-T）、その他 6 名		

議事概要（背景・目的・成果・問題点など）（この欄は、見かけは 1 行ですが、所定欄に改行しながら最大 28 行まで記入できます。）

I TC 100 では 2008 年 11 月開催のサンパウロ総会で、ISO、ITU-T から参加を得て、最初の High Level Meeting を開催した。この会議の結論として、2009 年 4 月下旬にジュネーブで Ad-Hoc を開催することになり、5 月 1 日に IEC 本部で開催した。JTC-1 議長は都合がつかず電話での参加となった。

ITU-T SG 9、SG 16 議長は、2009 年 1 月から新任と言うこともあり今回が TC 100 との最初の会合であり、IEC/TC 100 の活動内容を良く理解してもらうことが重要として、一部、2008 年 11 月の繰り返しになったが、活動内容、所掌範囲について ITU-T 側に十分に理解いただいた。その上で、ITU-T SG 9、SG 16 と IEC/TC 100 とが、IPTV 受信機、ホームネットワーク分野で同じような規格、勧告を作成する可能性があることを具体的な規格番号を示しながら確認した。また、IEC/TC 100 として、国際規格の空白領域であった DTCP-IP は、IEC 62481-3(DLNA-Part 3)として審議が始まったことを通知した。

IEC 62227 は、IEC/TC 100/TA 8 と ITU-T SG 16 で既に共同作業が始まったと川森氏から報告があり、どの様なテキストを共同開発するかについて議論された。ISO/IEC JTC 1 独自の Directives にある Annex K は ITU-T と JTC 1 のコモンテキスト規格、勧告を作成する規定であるが、これに習って ITU-T と IEC の共通規格を作ることは効率が悪いとの指摘があり、「パラレルテキスト」として IEC 規格、ITU-T 勧告を作成する方向に決まった。

次回は、IEC TC 100 テルアビブ会合の後、ITU-T SG 9、SG 16 会合の直前、10 月 25 日にジュネーブで開催する方向で検討することになった。

[注]：1. 該当者は、出席会議終了後[6週間以内]に国際会議担当委員経由で、国際標準化対応支援委員会事務局宛ご提出下さい。
国際会議出席報告書の審議・承認の後に補助金を支払う。
会議終了後速やかに提出し、直近の運営委員会にて審議・承認を受けることが望ましい。
2. 本報告書は、同一会議に2名以上出席の場合、代表者が提出してください。
3. WG が TC/SC/TA と同時開催の場合は、WG 会議内容は TC/SC 報告に含めて報告書を提出して下さい。
4. 報告書の追加、訂正が生じた場合は、運営委員会開催後1週間以内に事務局に提出して下さい。
5. この報告書は、手続き完了後、JEITA ホームページ「国際標準化対応支援委員会」に掲載し、会員企業への報告に替えます。

国際標準化対応支援委員会事務局：(社)電子情報技術産業協会　知的基盤部標準・安全グループ
〒101-0065 東京都千代田区西神田 3-2-1（千代田ファーストビル南館）　Tel：03-5275-7259　Fax：03-5212-8122

様式 4

（社）電子情報技術産業協会　　運営委員会・資料番号：2-3／TC100TA4-①（事務局記入）
国際標準化対応支援委員会　御中　　提出日：2009 年 6 月 8 日

（報告者記載）予算番号：H21TC100TA4①

国際会議出席報告書

国際会議担当委員名：蔭山　恵　　報告書作成者氏名：　由雄　淳一　（会社名）パイオニア（株）

出席会議名（半角）	区　分	組織番号（TC/SC/TA）	TC100/TA4（半角）
MT 60958-3	☐ TC ☐ SC ☐ TA ☐ WG ☒ PT ☐ その他		
	☐ TC ☐ SC ☐ TA ☐ WG ☐ PT ☐ その他	名　称（日本語）	デジタルシステムインタフェース＆プロトコル
	☐ TC ☐ SC ☐ TA ☐ WG ☐ PT ☐ その他		
	☐ TC ☐ SC ☐ TA ☐ WG ☐ PT ☐ その他	☒単独開催　☐同時開催	

開　催　期　日	2009 年 5 月 9 日 ～　200 年　月　日	
開　催　場　所	（国名）ドイツ	（都市名）ミュンヘン
ﾁｪｱﾏﾝ／ｺﾝﾍﾞﾅ	由雄　淳一	幹事国　韓国
参　加　国及び 参　加　人　数	6 ヶ国、主な国名 ドイツ、オランダ、米国、英国、中国、日本、参加人数（14）	
日　本　人 出席者名（会社名）	[○：補助対象者･･･（例）：○ 電子太郎(JEITA 電子)] ○由雄淳一(パイオニア)、蔭山恵、江島直樹、川村明久(パナソニック)、原田 登(NTT) ―テレコンにて参加	

議事概要（背景･目的･成果･問題点など）（この欄は、見かけは1行ですが、所定欄に改行しながら最大28行まで記入できます。）

背景と目的：

IEC 60958-3 はデジタルオーディオインターフェースの基本規格で他の規格は Normative reference としている。今後の日本の放送や新たなオーディオフォーマット、また機能追加やメタデータに対応する必要がある。このため当規格を早期に改定する必要があり、内容と方法、予定などの検討を行った。

成果と問題点：

以下の課題について審議し、PT メンバーは内容を理解した。この後 JEITA インタフェース標準化 G など関係会議で審議し、DC を準備して提出することとした。

課題は、（1）メタデータ（C-bit、U-bit）の新たなアプリケーション（多チャンネルダウンミックス、ラウドネス、LEF、IP アドレスなど多数）への適用（2）デジタル放送カテゴリーその他旧規格のアップデート（3）全体構成のパート分け（Part4 の将来の構成との整合）。

問題点は、次回改定は大規模になること、また多くの規格が当規格を参照している点。このため改定の準備を周到に進め、改定内容の漏れなく、また多くの他の規格と不整合が発生しないよう関係規格団体を含め関係者との連携を進めること。

次回開催は 2009.10 ニューヨーク市の予定。

[注]：1. 該当者は、出席会議終了後 [6週間以内] に国際会議担当委員経由で、国際標準化対応支援委員会事務局宛ご提出下さい。
国際会議出席報告書の審議・承認の後に補助金を支払う。
会議終了後速やかに提出し、直近の運営委員会にて審議・承認を受けることが望ましい。
2. 本報告書は、同一会議に2名以上出席の場合、代表者が提出してください。
3. WG が TC/SC/TA と同時開催の場合は、WG 会議内容は TC/SC 報告に含めて報告書を提出して下さい。
4. 報告書の追加、訂正が生じた場合は、運営委員会開催後1週間以内に事務局に提出して下さい。
5. この報告書は、手続き完了後、JEITA ホームページ「国際標準化対応支援委員会」に掲載し、会員企業への報告に替えます。

国際標準化対応支援委員会事務局：(社)電子情報技術産業協会　知的基盤部標準･安全グループ
〒101-0065 東京都千代田区西神田 3-2-1（千代田ファーストビル南館）　Tel：03-5275-7259　Fax：03-5212-8122

様式 4

（社）電子情報技術産業協会　　運営委員会・資料番号：2-3／TC100TA4-②（事務局記入）
国際標準化対応支援委員会　御中　　提出日：2009 年 6 月 8 日

（報告者記載）予算番号：H21TC100TA4②

国際会議出席報告書

国際会議担当委員名：蔭山　恵　　報告書作成者氏名：　市村　元　（会社名）ソニー（株）

出席会議名（半角）	区　分	組織番号（TC/SC/TA）	TC100/TA4（半角）
MT 61937-1	□TC □SC □TA □WG ☒PT □その他		
	□TC □SC □TA □WG □PT □その他	名　称（日本語）	デジタルシステムインタフェースとプロトコル
	□TC □SC □TA □WG □PT □その他		
	□TC □SC □TA □WG □PT □その他	☒単独開催　□同時開催	
開　催　期　日	2009 年 5 月 9 日 ～ 2009 年 5 月 9 日		
開　催　場　所	（国名）ドイツ	（都市名）ミュンヘン	
ﾁｪｱﾏﾝ／ｺﾝﾍﾞﾅ	市村　元	幹事国　韓国	
参　加　国及び 参　加　人　数	6 ヶ国、主な国名 中国、日本、ドイツ、オランダ、英国、アメリカ、参加人数（14）		
日　本　人 出席者名（会社名）	[○：補助対象者・・・（例）：○ 電子太郎(JEITA 電子)] ○市村元(ソニー)、蔭山 恵、江島直樹、川村明久(パナソニック)、由雄(パイオニア)		

議事概要（背景・目的・成果・問題点など）（この欄は、見かけは 1 行ですが、所定欄に改行しながら最大 28 行まで記入できます。）

MT61937-1 の PL として、本規格の次期改訂へ向け、広くエキスパートから意見を聞くことに加え、同時開催の PT61937-10、PT61937-11、PT61937-12、MT61937-2、MT60958-3 に参加し、要求要項を確認、MT61937-1 プロジェクト会議を主催し、方向性を決定する目的で会議を開催した。ここにおいて PT61937-10（日本よりの提案）より、プリアンブルワード Pd（コード長）の定義の改訂要求があることを確認、改訂案を示しメンバーから基本的に了承された。これをもとに 2011 年 IS 目標で、日本主導にて改訂を進める。
次回開催は 2009.10 ニューヨーク市の予定。

[注]：1. 該当者は、出席会議終了後[6週間以内]に国際会議担当委員経由で、国際標準化対応支援委員会事務局宛ご提出下さい。
国際会議出席報告書の審議・承認の後に補助金を支払う。
会議終了後速やかに提出し、直近の運営委員会にて審議・承認を受けることが望ましい。
2. 本報告書は、同一会議に 2 名以上出席の場合、代表者が提出してください。
3. WG が TC/SC/TA と同時開催の場合は、WG 会議内容は TC/SC 報告に含めて報告書を提出して下さい。
4. 報告書の追加、訂正が生じた場合は、運営委員会開催後1週間以内に事務局に提出して下さい。
5. この報告書は、手続き完了後、JEITA ホームページ「国際標準化対応支援委員会」に掲載し、会員企業への報告に替えます。

国際標準化対応支援委員会事務局：(社)電子情報技術産業協会　知的基盤部標準・安全グループ
〒101-0065 東京都千代田区西神田 3-2-1（千代田ファーストビル南館）　Tel：03-5275-7259　Fax：03-5212-8122

(TSC-06 様式 2008.1)

様式 4

（社）電子情報技術産業協会　　運営委員会・資料番号：2-3／TC100TA4-③（事務局記入）
国際標準化対応支援委員会　御中　　提出日：2009 年 6 月 8 日

（報告者記載）予算番号：H21TC100TA4③

国際会議出席報告書

国際会議担当委員名：　蔭山　惠　　報告書作成者氏名：　江島 直樹　（会社名）パナソニック株式会社

出席会議名（半角）	区　分	組織番号 (TC/SC/TA)	TC100/TA4 (半角)
MT 61937-2	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☒PT ☐その他		
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他	名　称 (日本語)	圧縮デジタルオーディオ・インターフェース：データ・タイプ
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他		
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他	☒単独開催　☐同時開催	
開催期日	2009 年 5 月 9 日 ～　200 年　月　日		
開催場所	（国名）ドイツ	（都市名）ミュンヘン	
ﾁｪｱﾏﾝ／ｺﾝﾍﾞﾅ	江島 直樹	幹事国　韓国	
参加国及び参加人数	5ヶ国、主な国名 日本、米国、中国、ドイツ、オランダ、参加人数（12）		
日本人出席者名（会社名）	[○：補助対象者･･･（例）：○ 電子太郎(JEITA 電子)] 蔭山 惠、川村 明久、○江島 直樹(パナソニック)、由雄 淳一(パイオニア)、市村 元(ソニー)		

議事概要（背景･目的･成果･問題点など）（この欄は、見かけは1行ですが、所定欄に改行しながら最大28行まで記入できます。）

背景・目的：

本規格の改訂は、新規パートで追加された圧縮デジタルオーディオフォーマットを本パートに反映し集約することである。　新たなオーディオフォーマットの１つは、各国のＤＴＶ放送などにも採用されるものであり、外部機器への伝送機能が期待されるため、早急な国際規格化を推進すべきものである。　また、諸外国とも協調しながら将来拡張性、互換性を担保していくために、データ・タイプ(ID)の割り当てについては基本方針を明確にして強力にリーディングする必要がある。　関連する規格のＰＬ、メンバーと連携をとりながら規格整備を注意深く進めるために、エキスパートの集まる AES の標準規格会議に併設して、メンテナンスプロジェク会議を開催した。

成果：

①追加すべき新データ・タイプは、ＡＬＳ、MPEG-4 LATM、および DRA であることを確認。

②ALS および LATM のデータ・タイプは、既にＰＬと合意済みであるのでこれを再確認。

③DRA のデータ・タイプについてはＰＬ(中国)と調整が必要であったため、以下の議論を展開。

DRA ファミリーとして領域で ID を予約したいとする主張に対し、コンベナから、データ・タイプが将来枯渇する課題の説明と、対策としての効率的割付け案の方針を示した。　また、現時点で具体的でない規格の事前予約は規制すべきであるとの見解を述べ、それに沿った対案を提示・説明した。　種々の議論の末、当方の対案通りとすることで最終合意が得られた。

④今後、データ・タイプ ID の付与方針をさらに明確にするため、使用方法ルールについて明確化の文言追加を提案し、全員の合意を得た。

今後はメールベースで意見集約を図り推進する。

今後の予定：　ＩＳ化までのスケジュール、
メンテナンスプロジェクト　DC：2009/09　、CDV：2010/02　、ＩＳ：2010/09
次回開催：　MT 61937-2：2009 年 10 月　ニューヨーク市にて開催予定。

[注]：1. 該当者は、出席会議終了後 [6週間以内] に国際会議担当委員経由で、国際標準化対応支援委員会事務局宛ご提出下さい。
国際会議出席報告書の審議・承認の後に補助金を支払う。
会議終了後速やかに提出し、直近の運営委員会にて審議・承認を受けることが望ましい。
2. 本報告書は、同一会議に2名以上出席の場合、代表者が提出してください。
3. WG が TC/SC/TA と同時開催の場合は、WG 会議内容は TC/SC 報告に含めて報告書を提出して下さい。
4. 報告書の追加、訂正が生じた場合は、運営委員会開催後1週間以内に事務局に提出して下さい。
5. この報告書は、手続き完了後、JEITA ホームページ「国際標準化対応支援委員会」に掲載し、会員企業への報告に替えます。

国際標準化対応支援委員会事務局：(社)電子情報技術産業協会　知的基盤部標準･安全グループ
〒101-0065 東京都千代田区西神田 3-2-1（千代田ファーストビル南館）　Tel：03-5275-7259　Fax：03-5212-8122

様式 4

（社）電子情報技術産業協会　　運営委員会・資料番号：2-3／TC100TA5-①（事務局記入）
国際標準化対応支援委員会　御中

提出日：2009 年 6 月 5 日

（報告者記載）整理番号：H21TC100TA5①②③④

国際会議出席報告書

国際会議担当委員名：濵田　靖司　　報告書作成者氏名：　濵田　靖司　（会社名）NEC

出席会議名（半角）	区　分	組織番号 (TC/SC/TA)	TC100/TA5 (半角) 様式 4
PT 60728-13	□TC □SC □TA □WG ☒PT □その他	名　称 (日本語)	ケーブルネットワーク
MT 60728-6	□TC □SC □TA □WG ☒PT □その他		
MT 60728–1	□TC □SC □TA □WG ☒PT □その他		
TA5	□TC □SC ☒TA □WG □PT □その他	□単独開催 ☒同時開催	
開催期日	2009 年 5 月 12 日 ～ 2009 年 5 月 15 日		
開催場所	（国名）フィンランド	（都市名）ヘルシンキ	
ﾁｪｱﾏﾝ／ｺﾝﾍﾞﾅ	TA5 Dr.Halme,FI PT60728-13 Mr.Matsumoto, JP MT60728-1 Prof.Mussino, IT MT60728-6 Dr.Schuwarzenau DE	幹事国 TC100：日本	
参加国及び参加人数	6ヶ国、主な国名 ﾌｨﾝﾗﾝﾄﾞ、ﾄﾞｲﾂ,ｲﾀﾘｱ、ｲｷﾞﾘｽ、ﾉﾙｳｪｲ、日本、参加人数（14）		
日本人出席者名（会社名）	[○：補助対象者･･･（例）：○ 電子太郎(JEITA 電子)] ○松本檀(日本ケーブルラボ)、 ○松本卓三(古河電工)、 ○濵田靖司(NEC)		

議事概要（背景･目的･成果･問題点など）（この欄は、見かけは 1 行ですが、所定欄に改行しながら最大28 行まで記入できます。）

TC100/TA5 の TA、PT60728-13，MT60728-1、MT60728-6 会合がフィンランド ヘルシンキ市の SESKO で開催され出席した。主な内容は以下の通り。

1．PT60728-13(放送信号の FTTH ｼｽﾃﾑ)の審議

CDV 文書（100/1478/CDV）は投票の結果、承認された。前述 CDV ではコメントが 18 件が出され、そのリゾリューション(補足説明追加、エディトリアル修正)を行った。殆どすべてのコメントが解消され、内容の最終確認が行われた結果、FDIS 文書化が合意された。

BS-IF 伝送(伝送周波数の広帯域化)、WDM 伝送に関する新提案をについて PL である松本檀氏からプレゼンし、NP 設立する方向で賛同が得られた。今後 NP 投票へ向け、ドキュメントを準備することとなる。

次回 PT60728-13 会合は 2 月、ブリュッセルで開催予定。

2．MT60728-1-1(双方向 RF ﾎｰﾑﾈｯﾄﾜｰｸ),MT60728-1-2(運用状態におけるｼｽﾃﾑ性能)の審議

（本会合は CENELEC TC209 ／WG4 との合同ミーティングという位置づけで行われた）

2-1 MT60728-1-1

CDV 文書（100/1477/CDV）は投票の結果、承認された。各 NC からのコメントについて審議し、FDIS 文書化が合意された。

CENELC で策定した DVB-C2 について関連部分の 60728-シリーズへの反映を今後検討していくこととなった。

2-2 MT60728-1-2

FDIS 文書(100/1531/FDIS,投票期限 5/29)について中間審議を行った。ノルウェイからは双方向システムでないことを理由に反対投票があった模様。次回 MT60728-1 会合は 2 月、ブリュッセルで開催予定。

3．MT60728-6 の審議

CD 文書（100/1511/CD）に対して出されたコメント 27 件について審議した。日本からは TC86 の日本メンバからの指摘事項も含めたコメント(参照文書の扱いなど)をし、ほぼ合意された。また、クロストークの測定方法についても承認され、光増幅器でのゲインチルトによる CSO 劣化については Annex とすることが合意された。継続審議事項も収束見通しがあり CDV へ移行することが合意された。

次回 MT60728-6 会合は 2 月、ブリュッセルで開催予定。

4．TA5 の審議

サンパウロ会合議事録の承認、CENELEC でのケーブル標準化(TC209)のアクティビティのプレゼンが行われた。（CENELEC TC209 と IEC TC100/TA5 間では CDV、FDIS 等はパラレル承認を適用している。）

TA5 の将来アクティビティについても意見交換がなされ、①DVB-C2、②HDTV,3D-TV、③IPTV に関するケーブルシステムとのインタフェース、④4096QAM など高速変調技術　についての標準化が必要との意見が出された。

次回 TA5 会合はテルアビブで開催が計画されている。

以上

様式 4

（社）電子情報技術産業協会　　運営委員会・資料番号：2-3／TC113-①（事務局記入）
国際標準化対応支援委員会　御中

提出日：2009 年 5 月 18 日

（報告者記載）予算番号：H21TC113①

国際会議出席報告書

国際会議担当委員名：春日壽夫　報告書作成者氏名：木村紳一郎　（会社名）日立製作所

出席会議名（半角）	区分	組織番号（TC/SC/TA）	TC113（半角）
TC113WG3	☐TC ☐SC ☐TA ☒WG ☐PT ☐その他		
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他	名称（日本語）	電気・電子分野の製品及びシステムのナノテクノロジー
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他		
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他	☒単独開催 ☐同時開催	
開催期日	2009 年 4 月 14 日 ～ 2009 年 4 月 16 日		
開催場所	（国名）中華人民共和国	（都市名）北京	
ﾁｪｱﾏﾝ／ｺﾝﾍﾞﾅ	W.Bergholz（ドイツ）	幹事国　ドイツ	
参加国及び参加人数	4ヶ国、主な国名 独、米、韓、日、参加人数（15）		
日本人出席者名（会社名）	[○：補助対象者･･･（例）：○ 電子太郎(JEITA 電子)] ○木村紳一郎(日立)、○宗兼史典(保土ヶ谷化学工業)、春日壽夫(NEC エレクトロニクス)、吉田二朗(東芝)		

議事概要（背景･目的･成果･問題点など）（この欄は、見かけは1行ですが、所定欄に改行しながら最大28行まで記入できます。）

1．目的：WG3 の定期委員会で、ナノエレクトロニクスの電子特性にかかわる IS,TS,新規提案の審議を実施する。2．成果：

PT62656 審議；CNT のベンダーとカスタマーがフォーマットを埋められるかどうか確認する。2 ヶ月で聞き取りし、1 ヶ月でドキュメント化し、3 ヶ月を掛けて配布審議する。国内委員会としては、WG３の分科会を利用し、聞き取りを行う予定。

PT62607 審議；現状のタイトルは「Technical Specification for the Electrical Characterization of Carbon Nanotubes using 4-probe Measurement」であるが、米国側の変更要求を鑑み、「Nanomanufacturing- Key Control Characteristics for CNT Film Applications- Resistivity」とした。KCC（Key Control Characteristics）というキーワードを入れたいという Fablicius 氏の意向もありこのようなタイトルになったが、韓国提案の方式が CNT、および、CNT で作ったフィルムの KCC になるのかどうか、はなはだ疑問である。

韓国提案ロードマップ（TG1 NanoTech Roadmap）；韓国委員会がまとめたロードマップを Park 氏が説明した。ナノエレに関して、半導体の延長線上にあるデバイスを想定しているように思われるプレゼンであった。半導体デバイスを想定したロードマップでは、ITRS の Emerging Device と同じであること、メモリデバイスとして MRAM や PRAM、ReRAM がターゲットになっており、これも、ITRS と同じであること、などを指摘した。

TG2　Ad-hoc Meeting on Meeting Nanoscale Contacts；Underwriters Laboratories Inc.の Greg 氏が、ナノコンタクトをキーワードに検索した 200 件あまりの文献を調査し、キーワード分類した。項目が多岐に渡るため、項目を絞る。以下はその候補である。Smaller Contact in Semiconductor、Contact in OLED、CNT/CNT、CNT/Metal Contact、PV（Nanorod や Nanodot を使うもの）、Flexible Electronics、Printable Electronics。専門家を推薦する。

3．問題点など；

今回の会議に出席することで、本 WG の目指すところが垣間見えたことは、収穫のひとつであった。それは、材料・装置⇒製造⇒製品の Performance Assessment⇒信頼性・安全性⇒製品寿命というチェーンの夫々の工程における、KCC（Key Control Characteristics）を明確にし、それを、次の工程につなげて行くことである。KCC とは、製品の characteristics を control する主因であり、ナノエレクトロニクスにおいては、それを支える材料にまで踏み込んで主因を明らかにするための手法が求められており、その標準化が必要である。一方で、テーマが絞りきれないという本質的な問題を含んでいることが課題のひとつとして挙げられる。

[注]：1. 該当者は、出席会議終了後 [6週間以内] に国際会議担当委員経由で、国際標準化対応支援委員会事務局宛ご提出下さい。
国際会議出席報告書の審議・承認の後に補助金を支払う。
会議終了後速やかに提出し、直近の運営委員会にて審議・承認を受けることが望ましい。
2. 本報告書は、同一会議に2名以上出席の場合、代表者が提出してください。
3. WG が TC/SC/TA と同時開催の場合は、WG 会議内容は TC/SC 報告に含めて報告書を提出して下さい。
4. 報告書の追加、訂正が生じた場合は、運営委員会開催後1週間以内に事務局に提出して下さい。
5. この報告書は、手続き完了後、JEITA ホームページ「国際標準化対応支援委員会」に掲載し、会員企業への報告に替えます。

国際標準化対応支援委員会事務局：(社)電子情報技術産業協会　知的基盤部標準･安全グループ

様式 4

（社）電子情報技術産業協会　　運営委員会・資料番号：2-3／SC31-①（事務局記入）
国際標準化対応支援委員会　御中

提出日：2009 年 6 月 1 日

（報告者記載）予算番号：H21SC31③

国際会議出席報告書

国際会議担当委員名：本田　邦夫　報告書作成者氏名：　河合　和哉　（会社名）パナソニック（株）

出席会議名（半角）	区　分	組織番号（TC/SC/TA）	JTC1/SC31（半角）
SC31/WG6	☐TC ☐SC ☐TA ☒WG ☐PT ☐その他		
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他	名　称（日本語）	自動認識及びデータ取得技術
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他		
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他	☒単独開催　☐同時開催	
開　催　期　日	2009 年 5 月 19 日 ～ 2009 年 5 月 20 日		
開　催　場　所	（国名）米国	（都市名）シダーラピッズ	
ﾁｪｱﾏﾝ／ｺﾝﾍﾞﾅ	C. Harmon	幹事国　米国	
参　加　国及び 参　加　人　数	8 ヶ国、主な国名 米国、オーストリア、オランダ、スウェーデン、ドイツ、フランス、韓国、参加人数（23）		
日　本　人 出席者名（会社名）	[○：補助対象者･･･（例）：○ 電子太郎(JEITA 電子)] ○ 河合和哉(パナソニック)、 高井弘光(デンソーウェーブ)		

議事概要（背景･目的･成果･問題点など）（この欄は、見かけは 1 行ですが、所定欄に改行しながら最大 28 行まで記入できます。）

・WG6 では、携帯電話と組合わせた RFID や ORM 及びセンサーネットワーク等の固定又は無線ネットワークに接続された自動認識及びデータ取得技術について審議している。
・今回の会議では、FCD 投票が行われた ISO/IEC 29143 の BRM と、NP 投票の結果、開発テーマとして成立した ISO/IEC 29172 から 29179 の WD に関する審議を中心に行われた。
・ISO/IEC 29143 の BRM では、FCD 投票における各国からのコメントに関する審議が行われた。審議の結果、技術的な変更が必要であるとの結論に達し、2nd FCD 投票を行うこととなった。
・ISO/IEC 29172～29179 の WD に関する審議では、各国からのコメントに関する対応の確認が行われた結果、すべての WD について、審議結果を反映したドキュメントを作成し、CD 投票に進めることが承認された。
・日本からは、近々の NP 提案に向けた情報提供を目的として、デンソーウェーブが”Implementation guidance for Optically Readable Media (ORM) reader incorporated in a mobile device and ORM displayed on mobile device”と題するプレゼンを行った。
・WG の運営に関して、現状のテーマに基づく 2 つの SG を設けることとした。1 つは、Mobile AIDC と呼ぶ携帯電話を組合わせた RFID と ORM を審議する SG1、もう一つは、センサー関連を審議する SG2 である。

次回の会議は、2010 年 3 月、韓国において開催する予定である。

[注]：1. 該当者は、出席会議終了後 [6 週間以内] に国際会議担当委員経由で、国際標準化対応支援委員会事務局宛ご提出下さい。
国際会議出席報告書の審議・承認の後に補助金を支払う。
会議終了後速やかに提出し、直近の運営委員会にて審議・承認を受けることが望ましい。
2. 本報告書は、同一会議に 2 名以上出席の場合、代表者が提出してください。
3. WG が TC/SC/TA と同時開催の場合は、WG 会議内容は TC/SC 報告に含めて報告書を提出して下さい。
4. 報告書の追加、訂正が生じた場合は、運営委員会開催後 1 週間以内に事務局に提出して下さい。
5. この報告書は、手続き完了後、JEITA ホームページ「国際標準化対応支援委員会」に掲載し、会員企業への報告に替えます。

国際標準化対応支援委員会事務局：(社)電子情報技術産業協会　知的基盤部標準･安全グループ
〒101-0065 東京都千代田区西神田 3-2-1（千代田ファーストビル南館）　Tel：03-5275-7259　Fax：03-5212-8122

（社）電子情報技術産業協会　　運営委員会・資料番号：2-3／SC31-②（事務局記入）　　様式 4

国際標準化対応支援委員会　御中

提出日：2009 年 6 月 1 日

（報告者記載）予算番号：H21SC31②

国際会議出席報告書

国際会議担当委員名：本田　邦夫　　報告書作成者氏名：　富岡　健　（会社名）富士通（株）

出席会議名（半角）	区　分	組織番号（TC/SC/TA）	JTC1/SC31（半角）
SC31/WG4/SG1 SC31/WG4/SG3	□TC □SC □TA □WG □PT ☒その他	名　称（日本語）	自動認識及びデータ取得技術
	□TC □SC □TA □WG □PT □その他		
	□TC □SC □TA □WG □PT □その他	□単独開催　☒同時開催	
開催期日	2009 年 5 月 11 日 ～ 2009 年 5 月 15 日		
開催場所	（国名）米国	（都市名）ダラス	
ﾁｪｱﾏﾝ／ｺﾝﾍﾞﾅ	SG1: S. Schuessler, SG3: S. Halliday	幹事国　米国	
参加国及び参加人数	11 ヶ国、主な国名 アメリカ、イギリス、フランス、オーストリア、日本、韓国、参加人数（32）		
日本人出席者名（会社名）	[○：補助対象者･･･（例）：○ 電子太郎(JEITA 電子)] ○ 富岡 健(富士通)、 江原 正規(東京工科大学)		

議事概要（背景･目的･成果･問題点など）（この欄は、見かけは 1 行ですが、所定欄に改行しながら最大 28 行まで記入できます。）

（1）WG4/SG1（RFID データプロトコル）

・今回の会議は、ISO/IEC 24791 Part6 と ISO/IEC 15961(Part1～3)、及び ISO/IEC 15962 の FCD 投票の BRM が主な議題であった。

・ISO/IEC 24791 Part6(セキュリティ)規格の FCD 投票は既にパスしているが、本規格の今後の取扱いについて再考を要求するコメントがいくつか提出されており、これを受けて BRM にて議論した。その結果、RFID システムに関するセキュリティ等の規格を検討する Working Group（WG7）が近く設置見込みであるが、この WG へ本規格をインプットして審議を進めることが SG1 内で合意された。その際、本規格は Working Draft の Status としてインプットする。

・ISO/IEC 15961(Part1～3)、ISO/IEC 15962 では、FCD 投票の全てのコメントについて BRM にて審議した。現在、WG4/SG3 にて BRM（FCD）中の ISO/IEC 18000-6 Amendment 規格ともリンクする内容の他に、15961 規格シリーズと 15962 規格は相互に密接にリンクしている内容も多く、プロジェクトエディターによる一部の改訂・編集が必要なことから、今回の BRM だけでは解決できない箇所もあり、全ての規格の BRM を Close することはできなかった。改訂・編集箇所のプロジェクトエディターによる作業完了後、BRM 参加者のレビューを実施、電話会議（8 月）で内容の最終確認を行い、BRM を Close することとなった。

（2）WG4/SG3（RFID エアーインターフェースプロトコル）

・2nd-FCD の ISO/IEC 18000-6 Amendment の BRM と、このドキュメントに記載しているバッテリ補助センサータグに関する規格の Artifact Demonstration が主な審議事項であった。ISO/IEC 18000-6 Amendment は今回の会議日程だけでは解決せず、引き続いて、8 月上旬の電話会議にて BRM を Close させるスケジュールとなる見込みである。

・バッテリー補助センサータグの Artifact Demonstration は、ISO/IEC 18000-6 Amendment 規格の中のバッテリー補助センサータグに関する規格の機能検証をおこなうものである。Demonstration は米国の Intelleflex 社と MAXIM 社、そしてイスラエルの Power ID 社(Simple Sensor Label)の 3 社が実施し、機能検証が行われた。

[注]：1. 該当者は、出席会議終了後 [6 週間以内] に国際会議担当委員経由で、国際標準化対応支援委員会事務局宛ご提出下さい。
国際会議出席報告書の審議・承認の後に補助金を支払う。
会議終了後速やかに提出し、直近の運営委員会にて審議・承認を受けることが望ましい。

国際標準化対応支援委員会事務局：(社)電子情報技術産業協会　知的基盤部標準･安全グループ
〒101-0065 東京都千代田区西神田 3-2-1（千代田ファーストビル南館）　Tel：03-5275-7259　Fax：03-5212-8122

様式 4

（社）電子情報技術産業協会　　運営委員会・資料番号：2-3／SC31-③（事務局記入）
国際標準化対応支援委員会　御中

提出日：2009 年 5 月 26 日

（報告者記載）予算番号：H21SC31①

国際会議出席報告書

国際会議担当委員名：本田　邦夫　報告書作成者氏名：　高井　弘光　（会社名）デンソーウェーブ

出席会議名（半角）	区　分	組織番号（TC/SC/TA）	JTC1/SC31（半角）
SC31/WG1 SC31/WG3	☐TC ☐SC ☐TA ☒WG ☐PT ☐その他		
	☐TC ☐SC ☐TA ☒WG ☐PT ☐その他	名　称（日本語）	自動認識及びデータ取得技術
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他		
	☐TC ☐SC ☐TA ☐WG ☐PT ☐その他	☐単独開催　☒同時開催	
開　催　期　日	2009 年 4 月 15 日 ～ 2009 年 4 月 16 日		
開　催　場　所	（国名）日本	（都市名）京都	
ﾁｪｱﾏﾝ／ｺﾝﾍﾞﾅ	WG1/ S. Ackley, WG3/ T. Barkan	幹事国　米国	
参　加　国及び 参　加　人　数	3 ヶ国、主な国名 米国、英国、日本、参加人数（14）		
日　本　人 出席者名（会社名）	[○：補助対象者･･･（例）：○ 電子太郎(JEITA 電子)] 柴田、高井（デンソーW）、佐藤（JAISA）、武富、井出（リコー）、宗像（ムナゾウ）、森（流通システム開発センター）、小澤 慎治（愛知工科大学）、小橋（JEITA）		

議事概要（背景･目的･成果･問題点など）（この欄は、見かけは 1 行ですが、所定欄に改行しながら最大 28 行まで記入できます。）

1．概要

WG1：RSS シンボル及びコンポジットシンボルの課題の審議、各プロジェクトの状況確認等を行った。

WG3：ISO/IEC 29133 リライタブルハイブリッドメディア（RHM）の品質評価方法及び ISO/IEC 15423 バーコードスキャナ及び復号器の性能試験方法の投票時のコメント対応会議、各プロジェクトの状況確認等を行った。

2．内容

WG1：

・日本で発見された、RSS Limited の誤読に関する問題は、米国でも独自に解析され、AIM と GS1 で問題解決に向けて検討が進んでいる。6 月 1 日の FCD 投票期限までに、更にコメントがあれば提出することになった。

・ISO/IEC 18004（QR コード）の正誤表が正式に出版されたことを確認した。

・TC122 から受け取った、QR Code 2005 のタイトル変更に関するレターへの対応を検討した。次回改訂時に、互換性も考慮した新たなタイトルを検討する。

WG3：

・日本提案の ISO/IEC 29133 （RHM の品質評価仕様）の CD 投票時のコメント対応を実施。特に問題となった点は、繰り返し書き換え後の品質評価方法であったが、日本からの追加提案が受理された。他のコメントも対応方法について合意を得、FCD 投票に進めることが全会一致で承認された。

・ISO/IEC 15423（バーコードスキャナ及び復号器の性能試験方法）の FCD 投票時のコメント対応を行い、FDIS 投票に進めることになった。

・Tina Barkan が WG3 のコンビーナを継続することが困難になったため、今後の方針を検討した。6 月の SC31 総会で、WG1 と WG3 を合併させることを提起し承認を求めることとする。

[注]：1. 該当者は、出席会議終了後 [6 週間以内] に国際会議担当委員経由で、国際標準化対応支援委員会事務局宛ご提出下さい。
国際会議出席報告書の審議・承認の後に補助金を支払う。

国際標準化対応支援委員会事務局：(社)電子情報技術産業協会　知的基盤部標準･安全グループ
〒101-0065 東京都千代田区西神田 3-2-1（千代田ファーストビル南館）　Tel：03-5275-7259　Fax：03-5212-8122

様式 9

㈳ 電子情報技術産業協会　　運営委員会・資料番号：2-3／SC31-④（事務局記入）
国際標準化対応支援委員会　御中

提 出 日： 2009 年 6 月 5 日
予算番号：H21SC31①

国際会議日本開催
経費収支報告書

1. 組　　織：　番　号　　JTC1/SC31
　　名　称（日本語）　自動認識及びデータ取得技術
2. 会　議　名：　SC31/WG1（ﾃﾞｰﾀｷｬﾘｱ）、WG3（ｺﾝﾌｫｰﾏﾝｽ）（☐単独開催　☒同時開催）
　　☐TC　☐SC　☐TA　☒WG　☐PT　☐その他
3. 開 催 期 日：　2009 年 4 月 15 日 ～ 2009 年 4 月 16 日
4. 開 催 場 所：　京都（国立京都国際会館）

単位:円

収 入 の 部		支 出 の 部	
科　　目	金　額	科　　目	金　額
国際標準化対応支援委員会	171,162 円	会場使用料	69,600 円
JEITA・AIDC 委員会	256,745 円	音響映像設備使用料	48,740 円
	円	事務機器及び諸設備使用料	167,631 円
	円	備品使用料及び会場設営費	2,100 円
	円	飲食費（内税）	125,433 円
	円	消費税	14,403 円
	円		円
	円		円
	円		円
合計（a）	427,907 円	合計（b）	427,907 円
		（a）－（b）	0 円

補助限度額:［会議出席者数（日本人登録メンバー9 人＋外国人 5 人）］×会議開催日数 2 日×1.5 万円＝420,000 円

補助請求金額　171,162 円
［補助基準･運用規定の補助率（40 %）。上限は 300 万円。］

以上の通り報告致します。　　2009 年 6 月 5 日
申請責任者：　柴田　彰

※本報告書は、（様式4）「国際会議報告書」に添付して下さい。

（TSC-06 様式 2007.9）